



# 平成27年度文部科学省指定 スーパーグローバルハイスクール <第4年次>

## 「イノベーション探究」実践報告書

「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～  
「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～





# 「イノベーション探究Ⅰ」

～地域再発見プログラム～の取組

KJ法で「京都」のイメージを共有



探究領域別オリエンテーション「地域創造」



京都文化博物館ワークショップ



京都文化博物館ワークショップ



福知山公立大学ワークショップ



福知山公立大学ワークショップ



京都光華女子大学ワークショップ



京都光華女子大学ワークショップ



京都府立図書館レファレンス



京都府立図書館レファレンス



立命館大学課題研究宿泊研修



立命館大学課題研究宿泊研修



# 「イノベーション探究Ⅱ」

## ～グローバル・ジャスティスプログラム～の取組

京都光華女子大学ワークショップ



京都光華女子大学ワークショップ



国立民族学博物館フィールドワーク



国立民族学博物館フィールドワーク



大阪大学ワークショップ



大阪大学ワークショップ



大阪大学アカデミック・ライティング講座



大阪大学アカデミック・ライティング講座



大阪大学アカデミック・ライティング講座



ポスターセッションリハーサル



S G H事業研究発表会 ポスターセッション



S G H全国高校生フォーラム



# 目次

## 「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～実践報告

1. 平成30年度「イノベーション探究Ⅰ」年間概要	3
2. 第1回 ガイダンス	4
3. 第2回 探究領域別オリエンテーション「地域創造」「人権」	6
4. 第3回 探究領域別オリエンテーション「文化財」、葵祭FW事前学習	8
5. 第4回 京都文化博物館ワークショップ	9
6. 第5回 福知山公立大学ワークショップ	12
7. 第6回 探究領域別オリエンテーション「教育」「産業」	15
8. 「京都フィールドワーク」(夏季休業中)	17
9. 第7回 「京都フィールドワーク」成果報告	22
10. 第8回 京都光華女子大学ワークショップ	23
11. 第9回 研究グループ別協働探究学習ガイダンス	25
12. 第10回 研究グループ別協働探究学習、京都府立図書館レファレンス	26
13. 第11回 福知山公立大学ワークショップ	27
14. 第12回 研究グループ別協働探究学習	29
15. 第13回 研究グループ別協働探究学習	30
16. 第14回 研究グループ別協働探究学習	31
17. 第15回 立命館大学課題研究宿泊研修	32
18. 第16回 グローバルネットワーク京都交流会	34
19. 第17回 校内課題研究発表会	35
20. プレゼンテーションタイトル一覧	38
21. 課題研究発表会資料(生徒作成パワーポイント)	39
22. プレゼンテーション評価票	43

## 「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～実践報告

1. 平成30年度「イノベーション探究Ⅱ」年間概要	45
2. 第1回 春休み課題図書読書成果発表会、ガイダンス	46
3. 第2回 研究グループ決定、研究テーマ検討	47
4. 第3回 京都光華女子大学ワークショップ	48
5. 第4回 国立民族学博物館フィールドワーク	51
6. 第5回 大阪大学ワークショップ	52
7. 第6回 研究計画書Ver.1作成	54
8. 大阪大学アカデミック・ライティング講座	56
9. 第7～9回 研究計画書Ver.2作成	62
10. 第10回 ポスターセッションリハーサル	64
11. 第11回 ポスターセッション最終準備	66
12. 第12回 SGH事業研究発表会 ポスターセッション	67
13. 第13・14回 研究計画書Ver.3作成	68
14. 第15・16回 研究ノート作成	70
15. 第17回 研究ノート輪読、「イノベーション探究Ⅱ」省察	79
16. ポスターセッションテーマ・要旨一覧	82
17. ポスター SGH全国高校生フォーラム、SGH甲子園	87
18. 平成30年度「総合的な学習の時間」年間概要	88

# 「イノベーション探究Ⅰ」

～地域再発見プログラム～

実践報告

## 平成30年度「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～ 年間概要

○目的

1	遺すべき地域の価値「京の智」を再発見する
2	ソーシャル・イノベーションの主体者としてグローバルな課題意識を形成する
3	価値創造力・協働力・突破力・寛容力・教養力を養う

○日程

段階	学期	回	月日	内容	海外研修
「京の智」に触れてみよう	1 学期	1	4月21日(土)	ガイダンス・趣旨説明、「京都」のイメージの共有	グローバル・コミュニケーションⅠ
		2	4月28日(土)	探究領域別オリエンテーション「①地域創造」「②人権」	
		3	5月12日(土)	探究領域別オリエンテーション「③文化財」、葵祭事前学習	
		4	5月15日(火)	葵祭フィールドワーク	
		5	5月26日(土)	講義及びワークショップ「資料論」・「地域遺産論」～文化財を創ろう～ 京都文化博物館 村野正景・西山剛先生	
		6	6月9日(土)	講義及びワークショップ 「フィールドワーク&ワークショップ入門」 福知山公立大学 杉岡秀紀先生	
		7	6月23日(土)	探究領域別オリエンテーション「④教育」「⑤産業」	
		8	7月7日(土)	豪雨のため休業(9/29へ)	
			7月11日(水)～15日(日)	鳥羽グローバル・サミット	
「京の智」を取り入れよう	夏休み			「京都フィールドワーク」(夏季) 探究領域:①地域創造 ②人権 ③文化財 ④教育 ⑤産業	SGH 韓国研修
「京の智」を出し合おう	2 学期	9	9月15日(土)	「京都フィールドワーク」の成果確認、研究グループ編成	ソーシャル・インテリジェンスでの実習
		10	9月22日(土)	講義及びワークショップ 「チームがうまく機能する秘訣と課題研究の手法を知る」 京都光華女子大学 乾明紀先生	
		11	9月29日(土)	研究グループ別協働探究学習ガイダンス	
		12	10月13日(土)	研究グループ別協働探究学習 (午後)京都府立図書館レファレンス(グループ代表者)	
		13	10月27日(土)	講義及びワークショップ 「聞き手の心に火を付ける！プレゼンテーション術」 福知山公立大学 杉岡秀紀先生	
		14	11月10日(土)	研究グループ別協働探究学習	
		15	11月15日(木)	SGH事業研究発表会(2年生の発表を聴講)	
		16	12月8日(土)	研究グループ別協働探究学習	
			12月15日(土)	研究グループ別協働探究学習	
	冬休み			探究まとめ(パワーポイント作成準備) 冬季フィールドワーク	SGH 台湾研修
「京の智」を発信しよう	3 学期	17	1月12日(土)～13日(日)	「イノベーション探究Ⅰ」課題研究宿泊研修 於:立命館大学びわこ・くさつキャンパス	
		18	2月2日(土)	京都府教育委員会主催「グローバルネットワーク京都交流会」 於:京都工芸繊維大学	
		19	2月23日(土)	校内課題研究発表会	
	春休み		3月下旬	春休み課題(課題図書) SGH甲子園	

○課題研究テーマ

<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間と関わる大きなテーマから出発する</li> <li>・京都における地域創造・人権・文化財・教育・産業から「京の智」を探究する</li> <li>・大きなテーマを探究しながら焦点化する＝課題発見＝課題を可視化し解決する</li> <li>・身近なところから調査・探究し、異文化理解、グローバル・イシュー解決へ関連付ける</li> <li>・モノを通してヒトを語る、ヒトからモノを知る</li> <li>・個人レポートと研究グループ別協働探究学習による研究を並行して進める</li> </ul>
---

○発表

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「京の智」を活かしたソーシャル・イノベーションを発信する作品(パワーポイント)を作成し発表</li> <li>＝鳥羽の智の蓄積＝鳥羽の遺産創造</li> <li>・作品(パワーポイント)は探究成果をストーリー化する</li> </ul>
--

## 「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～ 第1回

### 1. 実施日

平成30年4月21日（土）3・4限

### 2. 場所

3限 鳥羽高等学校1棟講堂 4限 各HR教室

### 3. 講師

鳥羽高等学校 教諭 桂カイ 大泉幸寛 （7組担当）

鳥羽高等学校 教諭 渡邊徹則 宮崎雄史郎 （8組担当）

### 4. 内容

#### ガイダンス

#### (1) アイスブレイク（3限 1棟講堂）

①内 容：シール（赤・青・白）を使ったゲーム

②ルール：a 絶対にしゃべらないで色ごとにグループを作り揃ったら座る

b 早く全員が座れたクラスが勝ち

③手 順：a 指導者が口頭で一切しゃべらないことを指示

b 指導者以外の担当で生徒の背中にシールを貼る

c パワーポイントのスライドで以下の順に指示

「クラス対抗」→「色別に集合」→「集合出来たら座る」→

「全員が早く座ったクラスの勝ち」→「では、スタート」

④学 び：a ルールを守る

b リーダーシップを発揮する

c 各自が役割を果たす

d 協働する

e ノンバーバルコミュニケーションを通して、コミュニケーションの重要性を体感する

#### (2) 趣旨説明（3限 1棟講堂）

①グローバル・リーダーについて

②課題研究「ソーシャル・イノベーション」について

③探究とは 「探究」と「探求」

④「イノベーション探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」について（別紙 連携資料 配布）

⑤「イノベーション探究Ⅰ」について（別紙 年間概要 配布）

⑥研究をすすめる上での留意点

#### (3) 「京都」を考える 現時点での京都イメージの確認（4限 各HR教室）

#### KJ法

①個人で京都の特長・課題をそれぞれ付箋に5つ記す

→書き方「○○な（の）都市（街）・京都」

②4～5人グループで付箋をA3用紙に貼る

→ジャンル別に分類し、分類したものにタイトルをつける

→グループごとにクラス全体に向けて発表する

### 5. 次回への課題

(1) 京都の「地域創造」「人権」に関わる何かについて、書物・新聞・インターネット等を使ってノートに調べ、世界との接点の有無を考え、資料を作成してくる。その際、必ず出典を明記すること。

手法・形式・分量は自由。

(2) 「イノベーション探究Ⅰ」用ノート、ファイルの準備

(3) 各グループでの発表準備

6. 学び

- (1) 明確な正解がないグローバル・イシューの解決に向けて、すでに社会が持っている智慧を再発見し、社会変革を探究する学びを進める。
- (2) グローバル・イシューの解決というと、遠く離れているように感じるが、「京の智」から接近できると仮説を立てている。自分達なりの答えを探し(=探究)、変革の主体者になる(=自己変革)。
- (3) 「京の智」を再発見し、発信するために、「鳥羽の智」を蓄積した作品を作成=遺産創造する。



## 「イノベーション探究 I」～地域再発見プログラム～ 第 2 回

### 1. 実施日

平成30年4月28日（土）3・4限

### 2. 場所

鳥羽高等学校7棟多目的教室

### 3. 講師

鳥羽高等学校 教諭 桂カイ 大泉幸寛 （7組担当）

鳥羽高等学校 教諭 渡邊徹則 宮崎雄史郎 （8組担当）

### 4. 内容

#### 探究領域別オリエンテーション「地域創造」「人権」

##### (1) 「地域創造」に関わる講義及びグループワーク（3限）

###### ① 「地域創造」とは？

まちづくりという観点から考えてみよう（事例）綾部市、京都市（祇園祭山鉾町）

###### ② 「地域の価値」とは？

どのようなものが地域の価値と呼べるだろうか

###### ③ グループワーク

調べてきた内容を共有しよう、他にも地域の価値をたくさん見つけよう

##### (2) 「人権」に関わる講義及びグループワーク（4限）

###### ① 人権とは何か、どのような人権問題があるか

女性、子ども、高齢者、障がい者、外国人問題、LGBT問題など

###### ② 京都ではどのような団体が人権に関わる活動をしているか

NPO法人に注目してみよう

###### ③ グループワーク

KJ法を用いて、「人権」に関わる問題を生活と結びつけながら考えよう

個人でそれぞれ付箋に5つ記す

4人グループで付箋をA3用紙に貼る→ジャンル別に分類しタイトルをつける

### 5. 次回への課題

(1) 京都の「文化財」に関わる何かについて、書物・新聞・インターネット等を使ってノートに調べ、世界との接点の有無を考え、資料を作成してくる。その際、必ず出典を明記すること。

手法・形式・分量は自由。

(2) 5月15日（火）の葵祭フィールドワークに向けて、「葵祭」について各自で書物・新聞・インターネット等を使ってノートに調べ、資料を作成してくる。その際、必ず出典を明記すること。

手法・形式・分量は自由。

### 6. 学び

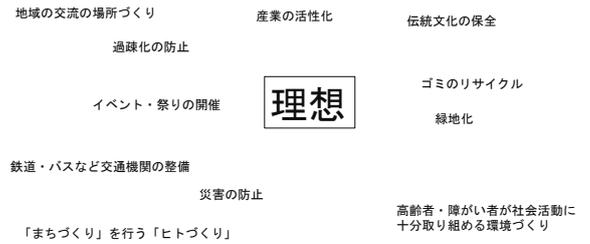
(1) 「地域創造」「人権」をテーマに夏季フィールドワークを行う場合、どのような問題意識で取り組めばよいかを理解する。

(2) グループワークをとおして、自分では気づけない価値や気づきがあることを理解し、他者と協働して取り組む大切さを学ぶ。

# 地域創造

4月28日（土）3限「イノベーション探究Ⅰ」  
場所：7棟多目的教室

## まちづくり



## まちづくりの事例①「綾部市」

- ・人口32,614人（平成30年4月1日現在）
  - ・高速道路の整備が進み工場建設が進んでいる。
  - ・丹波松茸、丹波栗などが特産物。
- ⇨一方で、市街地から離れると過疎化・高齢化が深刻

### 対策

「ゆったり感・やすらぎ感」をもたらす田園地域という地域価値

(参考) 佐々木一成 (2011). 『地域ブランドと魅力あるまちづくり—産業振興・地域おこしの新しいかたち』.  
学芸出版社.  
綾部市 推計人口. <http://www.city.ayabe.lg.jp/somu/shise/toke/jjinko/h30-0401.html>.  
(最終閲覧日2018年4月27日.)

「住みたくなる」  
「住みやすい」  
「住んでいて良かった」

→身近なところから価値を…

## 地域「創造」

「創造」とはいえ、ゼロからつくりあげ  
るのではない

→今まさに存在する地域のかたちから  
さらなる価値を見つけ出すこと  
…「京の智」

## グループワーク

- (1) 「地域創造」について調べた内容をグループで共有しよう。  
…調べた事は「京都」のどの地域のことだろうか。  
地図上に記入しよう。
- (2) 地域の価値をたくさん見つけてみよう。  
…府内全域、自分の住んでいる市町村、  
学校のまわり、通学途中のスポット など

## 「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～ 第3回

### 1. 実施日

平成30年5月12日（土）3・4限

### 2. 場所

鳥羽高等学校7棟多目的教室

### 3. 講師

鳥羽高等学校 教諭 桂カイ 大泉幸寛 （7組担当）  
鳥羽高等学校 教諭 渡邊徹則 宮崎雄史郎 （8組担当）

### 4. 内容

**探究領域別オリエンテーション「文化財」** （3限）

#### (1) グループワーク

「文化財」とは何か、学習前の認識を共有しよう

#### (2) 「文化財」とは？

「日本の歴史や文化の理解に不可欠であり、将来の文化の向上発展の基礎をなすもの」

#### (3) 京都と文化財

平安王朝文化、武家の浄土・禅文化、近世の町衆文化と推移

#### (4) 身近な「文化財」を探してみよう

**5月15日（火）葵祭フィールドワーク事前学習** （4限）

#### (1) グループワーク

葵祭について事前に調べてきた内容の共有

#### (2) 祭りの概要

起源・沿革、祭儀について、当日見学する路頭の儀（行列）について

#### (3) 路頭の儀（行列）の中で特に詳細に観察する人物・事物の選定

当日はスケッチを行うことで、現地では収集できない情報を知る

### 5. 次回への課題

- (1) 葵祭フィールドワークに向けて、今一度祭りの基本情報を振り返っておく。
- (2) 5月26日（土）は京都文化博物館の「資料論」・「地域遺産論」ワークショップ。  
事前に必ず、本日の「文化財」オリエンテーションの振り返りをした上で臨む。

### 6. 学び

- (1) 身近に存在するモノが「文化財」になり得ることに気づき、歴史的価値を見出す方法を知る。
- (2) 葵祭フィールドワークで行列をスケッチしながら観察することは、事物の詳細な特徴を読み取る調査力を鍛える意義があることを学ぶ。



## 「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～ 第4回

### 1. 実施日

平成30年5月26日（土）3・4限

### 2. 場所

鳥羽高等学校1棟講堂

### 3. 講師

京都文化博物館 学芸員 村野正景先生

京都文化博物館 学芸員 西山剛先生

### 4. 内容

#### 講義及びワークショップ 「資料論」・「地域遺産論」～文化財を創ろう～

手 法：資料を扱うプロの学芸員から資料の重要性や地域遺産の価値を学ぶ  
キーワード：ホンモノ 行為（見る・嗅ぐ・触る・感じる） 身近なものを資料に  
作 業：ホンモノを見て・嗅いで・触って・感じて資料調書を作成

(1) 学芸員自己紹介・資（史）料等配付

(2) レクチャー

学芸員の仕事を、調書というツールに即して解説

資料のもつ重要性を講義

5月12日（土）事前学習ワークシートに即して、身近なものなぜ文化財になり

得ると思ったのか、プロの学芸員の助言のもとディスカッション

\*資料を扱う際の注意事項説明（手洗い、時計等を外す、インクは使わない等）

(3) 作業（身近なものを本当に文化財にするにはどうすればよいか）

グループに分かれ、各々1つ資料を選択して調書を作成

グループで意見交換をしながら行為調書を作成（見る・嗅ぐ・触る・感じる）

→調書作成という具体的な行為をとおして多角的な視点を獲得

グループメンバーとの協働をとおして多様な視点を獲得

(4) 作業の振り返り

代表例紹介

どこまで情報を引き出せたか、自分なりの文化財認定の指標で調書を作成できたか

=自分の「語り」の枠を作成できたか

(5) 学芸員による総括

日常的な物事をデータ化する＝調書

一つの資料に宿る多様なストーリーを抽出

細かな点も観察する

→これらを仕事とするのが、学芸員である

本時の体験をとおして、「自分なりの価値をつむぐ」ことの重要性を理解

### 5. 次回への課題

(1) 今回の学びを振り返りワークシートを作成し、提出する。

(2) 身の回りのモノを1つ取り上げ、自分のオリジナルな指標に基づく調書を作成する。

## 6. 学び

- (1) 資料の重要性、地域の価値、ミクロな視点の重要性を知る。
- (2) 研究者は、調書を「共通言語」としてグローバルに研究を進めていることを知る。
- (3) 知識が増えればもっと資料の価値を見出せることを実感する。
- (4) 日常的な物事をデータ化し、身の回りの物事に宿る多様なストーリーを抽出する手法を獲得する。



# 行為調書

年月日 H30. 5. 26

焦げ?

見る

外側には縄目の模様。/  
内側や断面はこげ茶~黒色。  
小さい砂の粒が混じっている。

嗅ぐ

キレイな土のにおい。

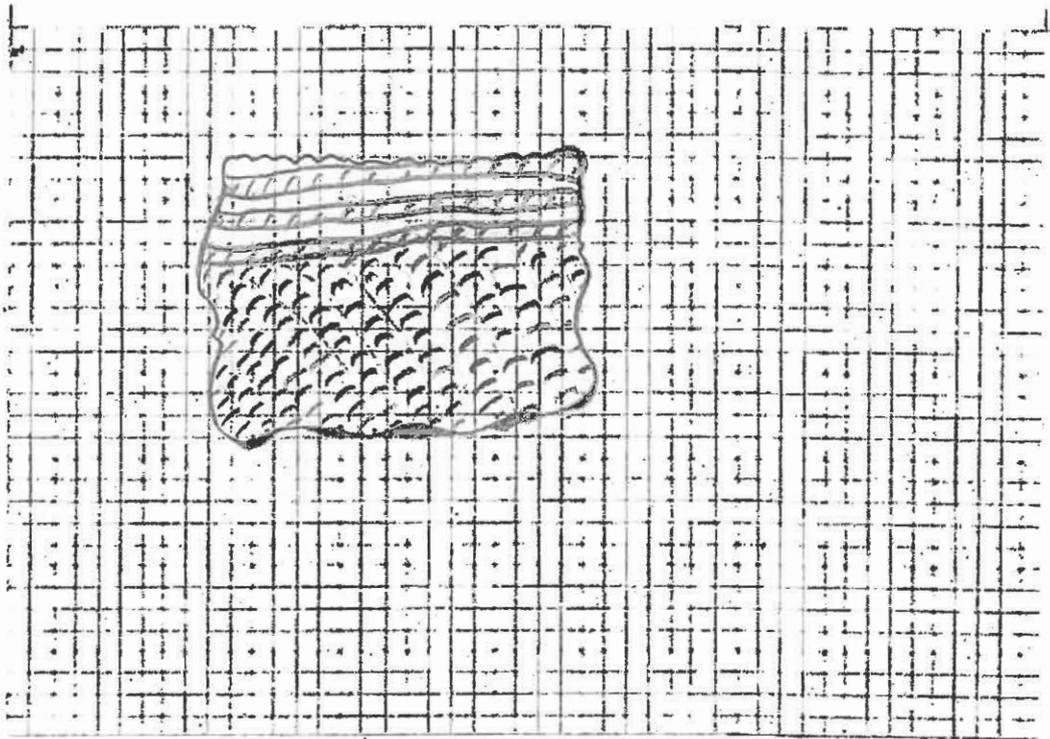
触る (目をつぶってみよう。手触りは?)

外側は縄の凹凸が感じられ  
る。  
内側はザラザラしている。

感じる (冷たい? やわらかい?)

内側はひんやりとしている。  
頑丈。

描く



資料紹介 (これは何ですか? 自分なりの目線でこの資料を紹介してください。)

内側には、少し焦げているよりは黒い部分が見られる。最も厚いところは約5mmもあり、丈夫な土器のように見える。表面の模様などから、これは縄文土器だと思われる。

## 「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～ 第5回

### 1. 実施日

平成30年6月9日（土）3・4限

### 2. 場所

3限 鳥羽高等学校1棟多目的教室      4限 鳥羽高等学校1棟講堂

### 3. 講師

福知山公立大学 地域経営学部 准教授 杉岡秀紀先生

TA 株式会社コミュニティ・ラボ 清水美優さん（本校卒業生）

京都府立大学公共政策学部 竹本寧々さん

福知山公立大学地域経営学部 井山大登さん

### 4. 内容

**講義及びワークショップ 「フィールドワーク&ワークショップ入門」**

3限 講義「フィールドワーク・ワークショップとは何か」

(1) はじめに

①自己紹介

(2) フィールドワーク入門

①フィールドワークの向き・不向き調査

②フィールドワークとは何か

フィールドワークとは

→フィールドの人から信頼されることが最も重要

(3) ワークショップとは何か

①はじめに

ペアワーク

②ワークショップとは何か

なぜワークショップが必要？

ワークショップとは何か

6つのワークショップタイプ

③ファシリテーションとは何か

ファシリテーションとは

ファシリテーターの役割

ファシリテーション・サイクル

グラドルール

ワークショップのポイント

(4) おわりに

①フィールドワークの作法を知った上で、実際に社会というフィールドで活動されているTAの方の話を聴き、夏季フィールドワークにつなげる。

②ワークショップの意義を知った上で、実際にワークショップを体験しよう。

→4限へ

4限 ワークショップ体験

(1) TAの方からの実践例の紹介

話を聴いて、後のワークショップで質問できるよう備える。

(2) ワークショップ（ワールドカフェ方式）

10分×2セットで3箇所に分かれ、各TAの方に質問をして交流する。

## 5. 次回への課題

今回は探究領域別オリエンテーションの最終回。京都の「産業」「教育」に関わる何かについて、書物・新聞・インターネット等を使ってノートに調べ、世界との接点の有無を考え、資料を作成してくる。その際、必ず出典を明記すること。

手法・形式・分量は自由。

## 6. 学び

- (1) フィールドワークやワークショップの「作法」＝手法を理解する。
- (2) 地域分析やグループワークをしていく上で必要不可欠な「作法」＝型を知る。
- (3) 「正解は一つではない」課題に取り組む姿勢を養う。
- (4) 社会で活躍されている先輩方の話を聴いて、夏季フィールドワークに臨むにあたっての心構えをする。



■鳥羽高校SGH 2018年6月9日資料 ■

## フィールドワーク & ワークショップ入門

---

1. はじめに
2. フィールドワークとは何か
3. ワークショップとは何か
4. おわりに

杉岡 秀紀  
福知山公立大学地域経営学部准教授  
北近畿地域連携センター長

### 2. フィールドワークとは何か

---

**【フィールドワークとは(6)】**

○フィールドワーク教育のポイント

- (1) 知らない・出来ない・分からないからのスタートでOK。
- (2) 良いことだけでなく、良くないことも学ぶこと。
- (3) 事前学習と事前学習のための文献集めが肝。
- (4) 聞いてはいけない、言っちゃいけないこともある。
- (5) こちらの常識で判断しない。cf) 録音・撮影するときの許可
- (6) 笑い・驚き・感動・尊敬を大切に

↓

**フィールドの人から信頼されることが最も重要。**

10

### 2. フィールドワークとは何か

---

**【具体的方法】**

- ①「地域(森)」を知る「声を聞く」(フィールドワーク)
- ②「地域」を発見する(フィールドワーク+ワークショップ)
- ③「地域(地図)」を描く(ワークショップ)
- ④「地域」に生かす、「人」を動かす(提言・アクション)

↓

一次情報はHPに(ググっても)落ちていない。  
足で稼いで、みんなの知を合わせて  
集合知を作ろう

11

### 3. ワークショップとは何か

---

**【なぜワークショップが必要?】**

これまでの討論・会議では...

- 議論の進行がうまくいかない!
- 参加している人の意見がうまく引き出させていない!
- 意見は出るんだけど、うまくまとまらない!

↓

**ファシリテーターが入ったWSの必要性**

### 3. ワークショップとは何か

---

**【ファシリテーション・サイクル】**

**①場のデザイン**  
アイスブレイク(自己紹介・体を動かす・頭を動かすなど)

**②対人関係**  
ブレイン・ストーミング・KJ法  
聞く・聴く・聞く

**③構造化**  
ファシリテーション・グラフィックで見える化

**④合意形成**  
独断・説得・調停・多数決・  
コンセンサス・完全合意

### 3. ワークショップとは何か

---

(例) グラドルルール

- ・相手を非難しない
- ・意見を否定しない
- ・肩書きや立場を忘れる
- ・愚痴や文句は言わない
- ・無理をしない
- ・人の話もよく聞く
- ・少数意見も大事
- ・楽しむ
- ・主体的に参加する
- ・etc...

## 「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～ 第6回

### 1. 実施日

平成30年6月23日（土）3・4限

### 2. 場所

鳥羽高等学校1棟多目的教室

### 3. 講師

鳥羽高等学校 教諭 桂カイ 大泉幸寛 （7組担当）  
鳥羽高等学校 教諭 渡邊徹則 宮崎雄史郎 （8組担当）

### 4. 内容

探究領域別オリエンテーション「教育」「産業」

#### (1) 「教育」に関わる講義及びグループワーク（3限）

- ① 京都の教育の歴史的特徴  
日本初の学区制小学校である番組小学校、日本初の盲ろう学校である京都盲啞院等、明治期に教育の最先端を歩む
- ② 「学生のまち」京都  
京都にある各大学の歴史を大学博物館等へのフィールドワークで知ろう
- ③ グループワーク  
①・②を探究することはどのような意義があるのか、議論しよう  
→ 京都の教育の歴史的価値（「京の智」）を見出し、未来の京都の発展を考える

#### (2) 「産業」に関わる講義及びグループワーク（4限）

- ① 京都の産業とは  
「伝統産業」、「先端産業」等様々な視点から捉える
- ② グループワーク  
「伝統産業」が直面している問題を考えてみよう
- ③ 「伝統産業」と「先端産業」  
「伝統産業」も昔は「先端産業」であったはずである  
「伝統産業」のノウハウが「先端産業」に継承されている（例）村田製作所

### 5. 次回への課題

次回、夏季フィールドワークの行き先や詳細を決定するので、各探究領域の中で自分  
はどの領域を選択するかを予め決定しておく。

### 6. 学び

- (1) 「教育」「産業」をテーマに夏季フィールドワークを行う場合、どのような問題意識で取り組めばよいかを理解する。
- (2) グループワークをとおして、自分では気づけない価値や気づきがあることを理解し、他者と協働して取り組む大切さを学ぶ。

イノベーション探究 I 第6回 (2018年6月23日(土))  
探究領域別オリエンテーション⑤

## 「京都の産業」

西陣織・京焼・清水焼・京友禅  
京組み紐・京漆器・京人形・  
竹工芸・京唐紙・京仏具・京仏壇  
など  
= 「伝統」産業

Q2. 「伝統産業」が直面している  
問題にはどのようなもの  
があるでしょう？

- 伝統産業も昔は先端産業
- 伝統産業も今の先端産業と  
つながっている。

### 伝統産業と現在の企業 (例)

#### 村田製作所

電子部品メーカー (セラミックコンデンサなど)

創業者: 村田昭

- ・実家は絶縁体 (碍子) を作る町工場  
「村田製陶所」
- ・町工場の手伝いの中で今のセラミックコンデンサ  
につながる精密特殊磁器の技術を確立
- ・京焼の技術

(参考) 財部誠一 (2015). 『京都企業の実力 効率を求めない独創経営のしたたかさ』. 実業之日本社.  
村田製作所 沿革. [https://www.murata.com/ja-jp?intcid5=com\\_xxx\\_xxx\\_cmn\\_hd\\_xxx](https://www.murata.com/ja-jp?intcid5=com_xxx_xxx_cmn_hd_xxx)  
(最終閲覧日2018年6月22日.)

フィールドワークでは...

- ・京都の伝統産業に携わっている人々に  
アンケートやインタビューを実施してほしい  
= 「現場の声を聞く」
- ・先端産業のミュージアムなども見てほしい  
= 「今を知る」

## 「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～ 京都フィールドワーク

### 1. 実施日

平成29年7月23日（月）～8月24日（金）の夏季休業中

### 2. 場所

京都府内各地

### 3. 事前学習内容

京都フィールドワークに向けての事前指導を7月20日（金）に実施



#### 「京都フィールドワーク」に向けて

##### (1) 目標

「京の智」をリサーチする

→「京都フィールドワーク」でのリサーチをもとに、2学期以降、研究グループを編成し、協働探究学習を進め、2月23日（土）に校内課題研究発表会で提言発表

##### (2) 考え方・学び方

フィールドワークとは（6月9日のワークショップで学習済み）

「歩いて五感で感じる」個人での調査・情報収集、インタビュー調査の実施

##### (3) リサーチにおけるカテゴリー

生活の中にある「京の智」からリサーチ

探究領域	フィールドワーク例
① 地域創造	地域を歩き、まちづくりに携わる方のお話を聴く
② 人権	人権に関わるNPO団体等を訪問し、お話を聴く
③ 文化財	博物館等を巡り、文化財保護に携わる方のお話を聴く
④ 教育	大学博物館・学校歴史博物館を巡り、学芸員の方のお話を聴く
⑤ 産業	伝統・先端産業に関わる博物館等を巡り、産業に携わる方のお話を聴く

##### (4) テーマ シートⅠ 参照

(3)の①～⑤のカテゴリーから各自でテーマを設定

##### (5) 計画 シートⅡ 参照

予定を立てる

必要場合はアポイントメントをとる 「作法」を大切に

##### (6) 事前調査 シートⅢ 参照

フィールドワークにおけるインタビュー調査時に失礼のないよう、事前に本やインターネットを活用して、テーマに関わる基礎調査を行う = 「作法」

##### (7) 調査 シートⅣ 参照

「歩いて五感で感じる」調査を実施

##### (8) まとめ シートⅤ 参照

諸資料はファイルにまとめる

##### (9) テーマの広がり（グローバルな視点を持つことができるとより良い）

①各テーマの現状把握…現在の課題認識

② 〃 歴史理解…過去の把握

③ 〃 将来展望…未来・世界への発信

### 4. 次回への課題

(1) 2学期に各自の調査に基づく調査報告会をグループで実施できるようにする。

(2) シートⅣ ～ シートⅤ は、9月15日（土）に提出する。

### 5. 学び

課題研究の基盤となる「京都フィールドワーク」を企画する。

シート I 探究領域を決定しよう

イノベーション探究 I ガゴリー・仮題・調査テーマ

「京都フィールドワーク」

( ) 組 ( ) 番 氏名 ( )

- あなたが選ぶカテゴリー（下表①～⑤から1つ選択）と探究仮題は？  
生活の中にある「京の智」をリサーチ 「歩いて五感で感じる」調査・情報収集

カゴリー	考えられるフィールドワークの例
① 地域創造	地域のスポット巡り→まちづくりに携わる方のお話を聴く ☆ 地域を創造する方の人生に迫り、地域創造の意義を考察
② 人権	人権に関わるNPO団体を訪問し、お話を聴く ☆ 人権を守る取組をされている方の人生に迫り、未来の人権のあり方を考察
③ 文化財	身近な文化財の発掘・著名な文化財の調査（博物館巡り等） →文化財保護に携わる方のお話を聴く ☆ 文化財を守り、語り継ぐ営みをされている方の人生に迫り、文化財の重要性を考察
④ 教育	大学博物館・学校歴史博物館巡り等→学芸員や大学生のお話を聴く ☆ 京都の教育に携わる方の人生に迫り、教育から京都の未来の発展を考察
⑤ 産業	伝統・先端産業に関わる博物館訪問→産業に携わる方のお話を聴く ☆ 京都の産業に携わる方の人生に迫り、京都の産業の将来を考察

↓ 探究領域を選択して、探究仮題を設定してこう！

カゴリー	興味ある探究仮題（テーマ）、想定されるフィールドワーク内容

（参考資料）フィールドワークの計画を始める前に・・・

インタビューで何を調査するのか？

イノベーション探究 I 『課題研究メソッド』 p. 82-84  
「京都フィールドワーク」

( ) 組 ( ) 番 氏名 ( )

- インタビュー調査の特徴

特徴	1対1の対話形式で行われる
長所	・インタビュー中に新たな発見があり、質問項目を変えた場合でも柔軟に対応ができる ・調査対象者の心の中にしか記録されていない内容を知ることができる
短所	・求めている回答に誘導する可能性がある ・記録をしつかり取り取らなければ実施後に分析できない
使用例	・人生経験、生い立ちやエピソード、感情や価値観の変化について

※ 事前調査をおろそかにすると、質問が雑拙で自分で調べれば分かる内容しか知ることができないなど、わざわざ時間を割いていただいた協力者に非常に失礼に当たる。「行ったら何とかなるだろう」という心構えはしないこと。例えば、伝統工芸に携わる方へインタビューする場合は、当然、その伝統工芸品の基礎情報や歴史等を調べた上で行く必要がある。

また、インタビュー調査の場合、プライバシーの保護を考慮しておく必要がある。インタビューの趣旨、どのような形でインタビューで知り得た情報を活用するかを事前に伝えて確認をとった上で、インタビューを実施しよう。（最終的にフィールドワークの成果をパワーポイントで発表する可能性があるということを知ってもらうところ。）

- フィールドワークの計画の立て方

1 インタビューのねらい…「人生に迫ろう」

自分の興味・関心に沿った調査対象（「誰に調査するか」）を考える。インタビュー項目を考え、どのような尋ね方をすれば、自分のインタビューのねらいにあった回答を得られるか。聞き方を練ってこう。

**point**

「インタビュー相手の人生のターニングポイントを知ろう！」

人権に関わる取組を始めようと思ったきっかけとは…？  
伝統工芸を継承する必要性を特に感じられる瞬間は…？

- 2 インタビューのねらいを達成できるフィールドワーク先を決定する

本・インターネット等を活用して、訪問先の候補をたくさん見つけ、その中から1か所に絞ってこう。

シートⅡ（調査前）

イノベーション探究Ⅰ  
「京都フィールドワーク」

計画

（ ）組 （ ）番 氏名 （ ）

1. 日時
2. 目的
3. 目的地（調査場所）・調査対象（具体的に）
4. 交通手段とルート
5. 調査項目（フィールドワーク先で調査する内容、インタビューで聴く内容等）

※ 事前に依頼が必要な場合も多いので、必ずよく調べた上でフィールドワークに行くこと。学校側から依頼するよう言われた場合は、その旨を担当教諭の誰かに伝えること。

シートⅢ（調査前）

イノベーション探究Ⅰ  
「京都フィールドワーク」

事前調査

（ ）組 （ ）番 氏名 （ ）

- フィールドワークでの探究仮題に関わる事柄について、実施前に事前調査しておこう。（インタビューを行う方への失礼にならないよう、事前調査を怠らないこと。）

【事前調査にあたって参考にした文献資料等】



イノベーション探究Ⅰ  
「京都フィールドワーク」

## まとめ

2学期にフィールドワーク調査報告会を行います。フィールドワークの目的と成果が明確に伝わるように、文章でフィールドワーク成果を整理しておこう。

「まちづくり」として、高齢化の進んで過疎地や観光地で行われているイメージだったので、普通の住宅地地域であるのにまちづくりが行われているのが気になり、まちづくりを行うことにより、地域住民の意識や関係にどのような変化が起るのかを知り、地域創造の意義を考察していくことを目的にフィールドワークを行った。実際に見た町並みは住宅の隣に店があり、違和感がなく統一感が自覚した。この修徳学区は小学校の跡地問題をきっかけに地域住民が自主的に活動を開始し、京都まちづくり協議会の第1号として認められた。職住近接のまちであるため住民の意識が高く、住民が積極的に活発に活動に参加しているのが特色である。ホテルなどの宿泊施設が増え、観光客も増える中、マナーが悪い観光客を迷惑に感じて直接言いつづける場合に協議会から対処を申し出てくれておりなど、協議会があることにより住民が我慢をなくして奇み、問題の対応ができるので住民は、こうして組織の大切さや気付かぬところ、何よりまちづくり活動により住民が元気になったこと(おかげで)が感じられる変化である。これからの課題としては放置された土地、町家の活用問題や震災が起きたときの危機管理の問題がある、という。フィールドワークを通し、まちづくりは、地域の賑わいを取り戻すだけでなく、住民が「住みたい」と思えるまちに住み続けられるようにすることの大切さを理解できた。

## 「イノベーション探究 I」～地域再発見プログラム～ 第 7 回

### 1. 実施日

平成30年9月15日（土）3・4限

### 2. 場所

鳥羽高等学校7棟多目的教室

### 3. 講師

鳥羽高等学校 教諭 桂カイ（7組担当）

鳥羽高等学校 教諭 渡邊徹則 宮崎雄史郎（8組担当）

### 4. 内容

#### 夏季フィールドワーク成果報告（3限）

##### (1) フィールドワーク成果報告（グループ）

探究テーマを参考に5人グループに振り分け、1人3分でフィールドワークの成果を報告する。その後、2分間で質疑応答を行う。

##### (2) 振り返り

グループでの成果報告を終えて、他者の報告から得た新たな気づきを各自ワークシートに記入する。

##### (3) フィールドワーク成果共有（全体）

代表グループを選出し、フィールドワーク成果を全体で共有する。

#### 2学期以降のスケジュールの確認（4限）

##### (1) 今後のスケジュールについて

2学期に行われるワークショップ、来年1月の立命館大学宿泊研修及び最終の課題研究発表会を軸として2学期以降のスケジュールを把握し、今後の展望を持つ。「ソーシャル・インテリジェンス」や「グローバル・コミュニケーション I」との連携についても触れる。

##### (2) 前年度課題研究発表会の動画視聴

最終目標を具体的にイメージするために、現2年生がおこなった昨年度の発表会の動画を視聴する。今年度の課題研究発表会で活用予定のループリックを配布し、昨年度の発表を例として生徒自らが「評価への参加」をする。  
→生徒の意見をもとにループリックを改変し、実際に2月の課題研究発表会で利用。

##### (3) ディスカッション

動画視聴後、実際に評価をしてみたことで気づいた発表の良い点や改善点をグループで議論し合う。グループで「よりよい研究発表とはどのようなものか」について合意形成し、到達目標を具体化していく。

##### (4) 全体共有及び教員のフィードバック

ディスカッション内容を全体で共有し、教員のフィードバックを行う。

### 5. 次回への課題

今回は京都光華女子大学准教授の乾明紀先生による講義及びワークショップ「チームがうまく機能する秘訣と課題研究の手法を知る」を実施する。本時の学びを受けて、よりよい研究発表をするためにチームで協働し、かつ質の高い探究を行う方法を学ぶ。

### 6. 学び

(1) フィールドワークの成果を他者と共有することで、様々な調査のあり方が存在することを学ぶ。

(2) 昨年度の課題研究発表会を視聴することで、到達目標の見通しを持つ。

## 「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～ 第8回

### 1. 実施日

平成30年9月22日（土）3・4限

### 2. 場所

鳥羽高等学校1棟多目的教室

### 3. 講師

京都光華女子大学 准教授 乾明紀先生  
ワークショップサポート

鳥羽高等学校 教諭 桂カイ 大泉幸寛（7組担当）

鳥羽高等学校 教諭 渡邊徹則 宮崎雄史郎（8組担当）

### 4. 内容

講義及びワークショップ 「チームがうまく機能する秘訣と課題研究の手法を知る」

#### (1) チームビルディング

- ① チームビルディングが注目される理由
- ② 求められるチームのイメージとは
- ③ チーム活動体験（ペーパータワー作成を題材としたチーム活動体験）
- ④ チーム活動体験のふりかえり（KPTによるふりかえり）
- ⑤ PM理論 Performance（目標達成）行動 Maintenance（集団維持）行動

#### (2) 課題研究の手法を知る

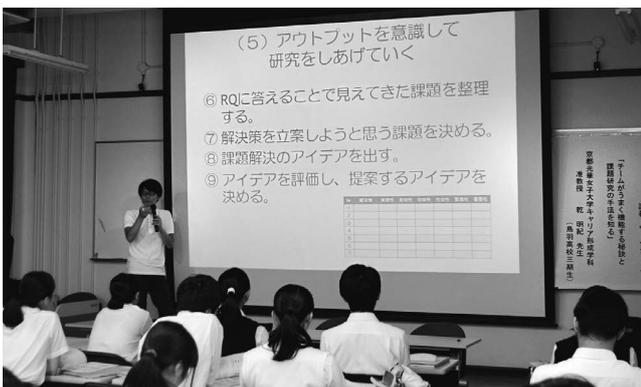
- ① なぜ、課題研究をするのか？
- ② 社会課題の発見から解決策の提案に至るプロセス
- ③ 鳥羽高校の課題研究（「京の智」再発見）のプロセス
- ④ よい課題を見つけ、よい解決策を提案するためのヒント

### 5. 次回への課題

10月13日（土）午後に、京都府立図書館でレファレンスを実施する。グループごとに代表1名を決定しておくこと。府立図書館の図書は、後日学校をとおして借りることができる。

### 6. 学び

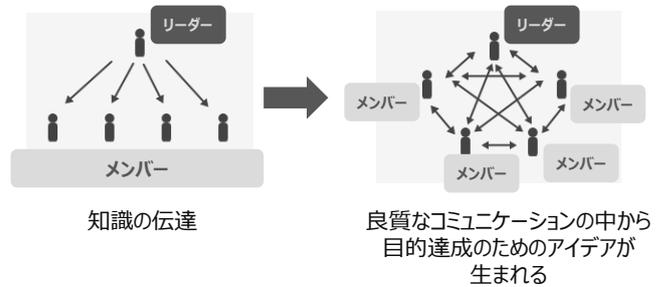
- (1) 研究グループで協働探究学習を効果的に進める手法やPM理論を、チーム活動体験をとおして学ぶ。
- (2) 夏季フィールドワークの成果を生かして探究を進めていくにあたって、「京の智」の再発見を目的とした探究プロセスを理解する。



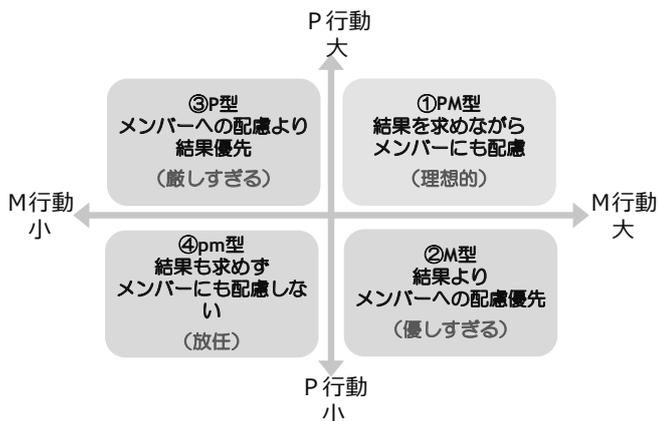
## チームがうまく機能する秘訣 と 課題研究の手法を知る

2018年9月22日@府立鳥羽高校  
京都光華女子大学 キャリア形成学科  
准教授 乾 明紀

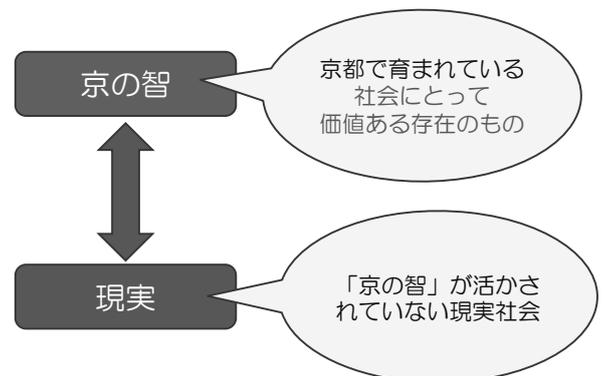
## 求められるチームのイメージ



## PM型になれば、最良のチームになる



## 京の智と課題の関係図



### (2) 研究テーマをより具体化し、「リサーチクエスト」を作っていく

- ③ 研究テーマと研究対象が決まれば、対象をよく知るために、最初の大きなリサーチクエスト (RQ) をつくる

RQ「なぜ(どうして)、〇〇(研究対象)は、・・・なのだろう?」を作る。

例) なぜ、豊産業は、衰退しているのだろう?

### (3) 最初のリサーチクエスト (という疑問) に答えていく

- ④ その大きなRQに答えを出したり、研究対象について深く知るための小さなRQを書き出す。
- ⑤ 書き出したものを検討し、重要だと思うものを人数分以上作る。

リサーチクエストの作成内容	作成日時
リサーチクエスト	

## 「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～ 第9回

### 1. 実施日

平成30年9月29日（土）3・4限

### 2. 場所

各HR教室

### 3. 講師

鳥羽高等学校 教諭 桂カイ 大泉幸寛（7組担当）

鳥羽高等学校 教諭 渡邊徹則 宮崎雄史郎（8組担当）

### 4. 内容

#### 研究グループ別協働探究学習の開始

##### (1) 今年度ルーブリックの配布

前々回に「よりよい研究発表とはどのようなものか」についてディスカッションをした内容をもとに、生徒の意見を取り入れた今年度版のルーブリックを配布する。  
→改めて、到達目標の見通しを持つ。

##### (2) 研究グループ別協働探究学習の開始

各自の問題関心をもとに編成した研究グループでの探究学習を始める。研究グループ間で改めてフィールドワークの成果を共有し、グループでの探究テーマを構想していく。

##### (3) 探究テーマ（大きなRQ＝リサーチクエスチョン）の決定

グループごとにフィールドワークの成果を踏まえながら、探究テーマを決定する。

##### (4) 探究を進めるにあたって

前回ワークショップで学んだ「チームがうまく機能する秘訣」と「課題研究の手法」を意識しながら進めていく。

### 5. 次回への課題

「課題発見・仮説立て→調査・分析→情報整理」のプロセスで探究学習が進むように、各グループで役割分担を決めながら計画を立てていく。10月13日（土）午後に、京都府立図書館でレファレンスを実施するので、研究テーマの決定後、テーマに関連する書籍を調査しておく。

### 6. 学び

(1) 研究グループ別協働探究学習を始めるにあたって、改めて到達目標の見通しを持つ。

(2) 研究グループで課題を発見し、解決に向けた仮説を立てる。

(3) 協働で計画的に調査・分析を進める。



## 「イノベーション探究 I」～地域再発見プログラム～ 第10回

### 1. 実施日

平成30年10月13日（土） 3・4限及び午後

### 2. 場所

3・4限 各HR教室、CAI教室 午後 京都府立図書館

### 3. 講師

鳥羽高等学校 教諭 大泉幸寛 （7組担当）

鳥羽高等学校 教諭 渡邊徹則 宮崎雄史郎 （8組担当）

午後

京都府立図書館 企画総務部企画調整課 課長 古川裕之先生

京都府立図書館 副主査 福島幸宏先生

鳥羽高等学校 教諭 渡邊徹則 大泉幸寛 宮崎雄史郎 … 引率

### 4. 内容

#### 研究グループ別協働探究学習

- (1) 探究テーマ（大きなRQ＝リサーチクエスト）の決定（続き）  
グループごとにフィールドワークの成果を踏まえながら、探究テーマを決定する。
- (2) 探究テーマをもとに小さなRQの設定  
メモリーツリーを活用し、大きなRQをスタートとして、現段階で分かっていること、今後調べるべき調査項目を挙げていく。午後のレファレンスの機会に参照したい書籍があれば、この時にリストアップしておく。

午後 京都府立図書館レファレンス 各研究グループ代表者1～2名

- (1) 図書館機能の説明
- (2) 蔵書検索方法（OPAC）・データベース利用方法の説明
- (3) 館内施設見学（閲覧室・バックヤードを含む）
- (4) 課題研究テーマに関する資料の検索・閲覧と貸出

### 5. 次回への課題

「課題発見・仮説立て→調査・分析→情報整理」のプロセスで探究学習が進むように、各グループで役割分担を行い、各自が役割を果たす。

### 6. 学び

- (1) 研究グループで課題を発見し、解決に向けた仮説を立てる。
- (2) 協働で計画的に調査・分析を進める。
- (3) 図書館機能を理解し、資料検索の手法を知る。
- (4) テーマに関する資料を検索・閲覧し、貸出を受ける。



## 「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～ 第11回

### 1. 実施日

平成30年10月27日（土） 3・4限

### 2. 場所

鳥羽高等学校1棟多目的教室

### 3. 講師

福知山公立大学 地域経営学部 准教授 杉岡秀紀先生  
TA 福知山公立大学地域経営学部 井山大登さん

### 4. 内容

講義及びワークショップ 「聞き手の心に火を付ける！プレゼンテーション術」

手 法：官民産学連携に長けたプロの研究者から効果的なプレゼンの手法を学ぶ

キーワード：聞き手の心に火を付ける！

作 業：聞く・見る・話すワークショップ

#### (1) プレゼンとは何か

- ①プレゼンの主役は誰か・・・「聞き手」である
- ②うまいプレゼンテーションとは
- ③よくあるプレゼンテーションの失敗例
- ④米国でのプレゼンテーションの重要度
- ⑤日本における独特なコミュニケーション
- ⑥プレゼンの三大要素 プレゼンター・コンテンツ・オーディエンス

#### (2) プレゼン力向上のための「五か条のご誓文」

- ①ポイント1 身体的要素（外見）
- ②ポイント2 内容に関する要素（内面）  
ピラミッド・ストラクチャーの応用：「PREP法」「SDS法」
- ③ポイント3 聞き手との交流に関する要素
- ④ポイント4 プレゼンテーションツール

#### (3) 杉岡流プレゼン術

- ⑤ポイント5 プレ「ゼン中八策」一～八  
一「プレゼンの上手な人を観察し真似する」 二「タイトルを工夫する(ユーモア!)」  
三「GTS (具体性・喩話/体験談・数字)」 四「有名人の言葉や経験談を引用する」  
五「ビジュアル(写真・音声・動画)に訴える」 六「?や!を入れる」  
七「極力メモは見ない (No look pass)」 八「シンプル・イズ・ザ・ベスト」

#### (4) おわりに

### 5. 次回への課題

効果的なプレゼンの手法を踏まえて、今後、研究グループで課題研究を協働で進める。

### 6. 学び

- (1) プレゼンは誰でも上達することを知り、語源であるpresentの気持ちを持って良いプレゼンターになろうとする。
- (2) プレゼンはあくまでも手段であることをしっかりと認識し、課題研究の目的を再確認する。

2018年10月27日資料

■ 鳥羽高校SGH ■

## 『聞き手の心に火を付ける！ プレゼンテーション術』

---

1. プレゼンとは何か
2. プレゼン力向上のための五か条のご誓文
3. 杉岡流プレゼン術
4. おわりに

**杉岡 秀紀**  
福知山公立大学地域経営学部准教授

### 1. プレゼンとは何か

---

#### 【よくあるプレゼンテーションの失敗例】

- (1) 緊張してしまい、言うべきことを忘れてしまう。
- (2) 簡潔で分かりやすいコンテンツが用意できていない(何が言いたいのか分からない)。
- (3) 自信がなく、余計なことを話し過ぎている。
- (4) 声が小さ過ぎて、よく聞き取れない。
- (5) 質問に対する答えが的を得ていないetc…

cf) 32%の人が人前で話すのを恐れている。

杉岡秀紀(福知山公立大学) 24

### 1. プレゼンとは何か

---

#### 【プレゼンの3大要素】

- (1) プレゼンター  
→ 聞き手のプレゼンターに対する印象で良し悪しが決まる(最初の「3分間」で決まる)。cf) What's in it for me?
- (2) コンテンツ  
→ 内容の完成度は、聞き手には関係しない。  
※ 「目」だけで10%、「耳」だけで20%しか残らないが、両方なら70%記憶に残る。
- (3) 聞き手  
→ プレゼンテーションの主演。成否は聞き手に依存。  
杉岡秀紀(福知山公立大学) 27

### 2. プレゼン力向上のための五箇条のご誓文

---

#### 【プレゼンテーション力向上のポイント(3)】

○ 聞き手との交流に関する要素

- ・ プレゼンは双方通行(お客さん≠かぼちゃ)。
- ・ 「質疑応答」でつながり感を醸成できる。  
→ 想定問答は必ず事前に考えておく。
- ・ あとはアイコンタクト&スマイル&リラックスで、Connection(前出)やAgreement(同意)を得る  
(挨拶や配布資料を自分で配ることも効果大)

杉岡秀紀(福知山公立大学) 31

### 3. 杉岡流プレゼン術

---

#### 【プレゼンテーション力向上のポイント(5)】

○ プレ「ゼン中八策⑧」

「シンプル・イズ・ザ・ベスト」

cf) 「1シート・1フレーズ(脱スライドメント)」

杉岡秀紀(福知山公立大学) 43

### 4. おわりに

---

#### 【まとめ】

- プレゼンは、誰でもうまくなる。
- 「量化が悪化を駆逐する」 cf) 量質転化
- 大事なことは、良いプレゼンをするのではなく、「良いプレゼンター」になろうと思うこと。
- プレゼンはあくまでも手段。目的の再確認を。
- 語源である“present(贈り物、現在の)”の気持ちも忘れずに。

杉岡秀紀(福知山公立大学) 45

## 「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～ 第12回

### 1. 実施日

平成30年11月10日（土）3限

### 2. 場所

各HR教室

### 3. 講師

鳥羽高等学校 教諭 桂カイ 大泉幸寛（7組担当）

鳥羽高等学校 教諭 渡邊徹則 宮崎雄史郎（8組担当）

### 4. 内容

#### 2年生「イノベーション探究Ⅱ」ポスターセッションについて

2年生のポスターセッションの発表内容を理解し、プレゼンテーションの主役は「聴き手」であるという前回のワークショップを踏まえ、オーディエンスとして主体的に参加し、質問・評価ができるように事前学習を行う。

#### 研究グループ別協働探究学習

##### (1) 探究内容の深化

探究テーマに関連する統計資料をもとに「ソーシャル・インテリジェンス」の時間に個別作成したグラフや、府立図書館より借りた書籍等を活用しながら、探究テーマに関して分かっていることを整理するとともに、今後進めていくべき調査内容を明確化する。

①資料を整理し、分析＝「協働探究」する。

②研究グループのテーマと①の関連性を分析し、研究グループなりの「問い」＝「課題発見」や「答え」＝「仮説」を設定する。

③資料を整理して、ストーリーを作る。

④内容や形式を見直し、「伝わる」プレゼンにする。

##### (2) 文献資料の精査について

京都府立図書館から借りた書籍については、内容を厳選し、コピーが必要な部分に付箋を貼る。付箋には組・研究グループ代表者名・ページ（p○～p△）を記す。当該書籍については本校図書館に置いてあるので、必要であれば貸出手続きを行う。

### 5. 次回への課題

研究グループ別協働探究学習を進めるために、個人での情報収集を進め、研究グループ内での役割分担を行う。

### 6. 学び

(1) 2年生のポスターセッションの発表内容を理解し、オーディエンスとして主体的に参加し、質問・評価ができるようになる。

(2) 研究グループ別協働探究学習の今後の手順を理解し、探究を深化する。

## 「イノベーション探究 I」～地域再発見プログラム～ 第13回

### 1. 実施日

平成30年12月8日（土）3・4限

### 2. 場所

各HR教室、図書館、CAI教室

### 3. 講師

鳥羽高等学校 教諭 桂カイ 大泉幸寛 （7組担当）  
鳥羽高等学校 教諭 渡邊徹則 宮崎雄史郎 （8組担当）

### 4. 内容

#### 研究グループ別協働探究学習

##### (1) 資料の精査

文献：京都府立図書館から借りた書籍や学校図書館の書籍を活用し、各自のRQを深める。

オンライン：ipadやPCを活用し、各種HP等を参照しながら、資料を収集する。

インタビュー：夏季フィールドワークの成果を生かしているか再検討する。

##### (2) 課題発見・仮説立て 調査・分析 情報整理

各自のRQを統合し、グループで1つの発表ができるよう、発表の構成を考えていく。

##### (3) プレゼンテーション時間の確認 発表7分 質疑応答2分

### 5. 次回への課題

「調査・分析→情報整理→作品（パワーポイント）作成→発表」のプロセスで探究学習が進むように、各グループで役割分担を行い、各自が役割を果たす。

### 6. 学び

(1) 協働で計画的に調査・分析を進める。

(2) ストーリー性があり、人にフォーカスした伝わりやすいスライドを作成する。

(3) 課題研究発表会に向けた工程を考える。



## 「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～ 第14回

### 1. 実施日

平成30年12月15日（土） 3・4限

### 2. 場所

各HR教室、図書館

### 3. 講師

鳥羽高等学校 教諭 桂カイ 大泉幸寛 （7組担当）

鳥羽高等学校 教諭 渡邊徹則 宮崎雄史郎 （8組担当）

### 4. 内容

#### 研究グループ別協働探究学習

##### (1) 資料の精査

文献：京都府立図書館から借りた書籍や学校図書館の書籍を活用し、各自のRQを深める。

オンライン：ipadを活用し、各種HP等を参照しながら、資料を収集する。

インタビュー：夏季フィールドワークの成果を生かしきれているか再検討する。

##### (2) 課題発見・仮説立て 調査・分析 情報整理

班員それぞれのRQを統合し、グループで1つの発表ができるよう、発表の構成を考えていく。

##### (3) 1月12日（土）～13日（日）に実施する立命館大学課題研究宿泊研修で、パワーポイントを完成させ、発表準備を進めるために必要な冬季休業中の再調査項目について最終確認をする。

##### (4) 課題研究宿泊研修についての確認

1月12日（土）10:45 学校出発

### 5. 次回への課題

「調査・分析→情報整理→作品（パワーポイント）作成→発表」のプロセスで探究学習を完成させるため、各グループ内で対話を行い、グループとしてあるいは個人として何がわかっている、何がわかっていないのかを明確にする。その上で今後の役割分担を行い、課題研究宿泊研修で作業を効率的に行えるように、冬休み中に準備を進める。

### 6. 学び

(1) 相互協働作業である対話をとおして、現時点でグループとしてあるいは個人として何がわかっている、何がわかっていないのかを明確にする。

(2) ストーリー性があり、人にフォーカスした伝わりやすいスライドを作成する。

(3) 課題研究発表会に向けた最終工程を考える。

## 「イノベーション探究 I」～地域再発見プログラム～ 第15回 (課題研究宿泊研修)

### 1. 実施日

平成31年1月12日(土)～13日(日)

### 2. 場所

立命館大学びわこ・くさつキャンパス  
滋賀県草津市野路東1丁目1-1

### 3. 講師

立命館大学 入学センター入試広報課 新田葵先生

TA 立命館大学 学生(5名)

情報理工学研究科 伊藤隼さん 理工学研究科 大野玉花さん

情報理工学部 瀬川莉彩さん 生命科学部 青木隆浩さん 薬学部 角田悠輔さん

鳥羽高等学校 教諭 桂カイ 鳥羽高等学校 教諭 大泉幸寛

鳥羽高等学校 教諭 渡邊徹則 鳥羽高等学校 教諭 宮崎雄史郎

鳥羽高等学校 教諭 植垣恵 鳥羽高等学校 講師 田村美紀

### 4. 内容

#### 「イノベーション探究 I」課題研究宿泊研修

「鳥羽の学びネットワーク」の一つで、SGUでもある立命館大学BKCの充実した施設を利用し、課題研究発表会に向けて、集中的に研究グループで協働し、プレゼンテーションの準備を行う。また、立命館大学の学生にTAとして入ってもらい、グローバルな視点も含めた細やかな指導・助言を受ける。

#### (1) 1月12日(土)

10:45～11:45 学校出発、貸切バスで移動

12:00～12:30 開講式

12:30～13:30 昼食

13:30～18:00 SGH課題研究発表準備Ⅰ

18:00～19:00 夕食

19:00～21:20 SGH課題研究発表準備Ⅱ

21:20～23:00 入浴、就寝(23:00)

#### (2) 1月13日(日)

6:00 起床

7:00～8:00 SGH課題研究発表準備Ⅲ

8:00～9:00 朝食

9:00～12:00 SGH課題研究発表準備Ⅳ(ミニプレゼンテーションを含む)

12:00～13:00 昼食

13:00～13:30 閉講式

13:30～14:30 会場出発(貸切バス)、学校到着後、解散

### 5. 次回への課題

資料収集を完了し、スライドやシナリオを完成に近づけ、役割分担を確定させ、「ソーシャル・インテリジェンス」の授業で発表に向けた演習を行い、課題研究発表会に臨む。

### 6. 学び

研究グループで協働し、効果的なプレゼンテーションの準備を行う。その中で、課題研究の内容がグローバルな視点を持っているか、根拠が十分であるかなどについて検証する。また、立命館大学のTAからの助言を生かして、課題研究を深化させる。



## 「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～ 第16回 (グローバルネットワーク京都交流会)

### 1. 実施日

平成31年2月2日(土) 午前10時～午後4時30分

### 2. 場所

京都工芸繊維大学松ヶ崎キャンパス  
京都市左京区松ヶ崎橋上町

### 3. 講師(引率者)

鳥羽高等学校	校長	山埜茂彦	鳥羽高等学校	副校長	橋長正樹
鳥羽高等学校	教諭	片山哲也	鳥羽高等学校	教諭	佐藤政史
鳥羽高等学校	教諭	桂カイ	鳥羽高等学校	教諭	大泉幸寛
鳥羽高等学校	教諭	渡邊徹則	鳥羽高等学校	教諭	宮崎雄史郎
鳥羽高等学校	講師	ミューリ・ニコラス			

### 4. 内容

グローバルネットワーク京都交流会(京都府教育委員会主催)

#### (1) 提言発表Ⅰ プレゼンテーション(一般公開)

- ①テーマ 「持続可能な国際社会への展望」
- ②時間 7分以内
- ③使用言語 英語
- ④発表者 S G H台湾海外研修参加生徒2年生2名

#### (2) 提言発表Ⅱ ポスターセッション

- ①テーマ 「持続可能な国際社会への展望」
- ②時間 1回8分(発表5分、質疑応答3分)  
全8回実施(3チーム4回発表)
- ③使用言語 日本語
- ④発表者 イノベーション探究Ⅱ(2年生)日本語発表 3チーム×4回  
エリア・スタディ領域11名

### 5. 次回への課題

他者の意見＝異なる価値観と触れ合うことにより得た知見を、今後の自分自身の課題研究に生かす。

### 6. 学び

交流会において、他者の意見と触れ合うことをとおして、社会参画意識を醸成するとともに、課題分析力・思考力・判断力・表現力を高め、国際社会に貢献するグローバル・リーダーとしての資質を養う。

## 「イノベーション探究Ⅰ」～地域再発見プログラム～ 第17回

### 1. 実施日

平成31年2月23日（土）3・4限

### 2. 場所

鳥羽高等学校3棟1階化学講義室、3棟2階生物講義室

### 3. 講師

鳥羽高等学校 教諭 桂カイ 大泉幸寛 （7組担当）  
教諭 渡邊徹則 宮崎雄史郎 （8組担当）  
講師 田村美紀（「ソーシャル・インテリジェンス」担当）

#### 指導・助言

福知山公立大学地域経営学部 准教授 杉岡秀紀先生  
京都光華女子大学キャリア形成学科 准教授 乾明紀先生  
京都府立図書館 副主査 福島幸宏先生  
T A 株式会社コミュニティ・ラボ 清水美優さん（本校卒業生）  
福知山公立大学地域経営学部 井山大登さん 森田奈津美さん

### 4. 内容

#### 課題研究発表会

- (1) 研究グループごとに課題研究発表 各グループ9分（発表7分・質疑応答2分）
- (2) 生徒による相互評価
- (3) 外部指導者による評価・指導・助言
- (4) まとめ  
\*評価には観点別評価のためのルーブリック及び評価用紙を使用

### 5. 次回への課題

今回得た評価・講評等をもとに、研究グループの発表に修正を加える。

### 6. 学び

- (1) 京の智の再発見・再認識を目的とした課題研究について発表することにより、課題研究能力および発信能力を高めるとともに、自他の評価をすることにより、自己の「イノベーション探究Ⅰ」での課題研究を省察し、「イノベーション探究Ⅱ」への展望を持つ。
- (2) 課題研究内容について校内外から講評を受けることにより、多角的な視座から研究内容を見つめる。





# 課題研究発表会資料

## (生徒作成パワーポイント)

### 発表タイトル一覧

7組		
グループ	領域	発表タイトル
7-1	地域創造・産業	若者が歴史的価値あるものに興味を示すには…
7-2	文化財	観光地ではない京都芸術センターになぜ外国人が集まるのか？
7-3	文化財	文化財×SNS
7-4	文化財	京の食文化
7-5	教育・人権	海外から見た京都
7-6	教育	京都のいじめをなくすにはどうすればいいのだろうか？
7-7	教育	グローバルリーダーの条件とは？
7-8	産業	医療産業を発達させるには
7-9	産業	なぜ京都では多くの伝統産業が受け継がれているのか

8組		
グループ	領域	発表タイトル
8-1	地域創造	京都の町おこしは魅力を伝えられているのか
8-2	地域創造	より良い町おこしをするには？
8-3	教育	より良い教育を目指して
8-4	文化財	下鴨神社はなぜ守られている？ ～これから守り続けるには～
8-5	文化財	現在、存在している文化を知ってもらって、より発展させるにはどうしたらよいか？
8-6	文化財	博物館を身近に感じてもらうためには
8-7	地域創造	コミュニケーションをとれるまちとは？
8-8	産業	伝統産業の未来
8-9	産業	どうして伝統産業は身近ではないのだろうか



課題研究発表会資料

1-7 8 班

医療産業を発達させるには

1-7-8  
青野、生野、井上、今堀、内藤

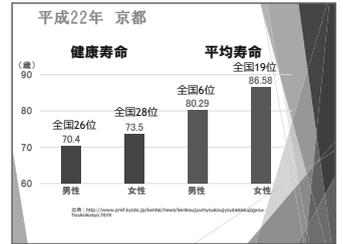
京都の健康寿命をのばすには

~~平均寿命~~

↓

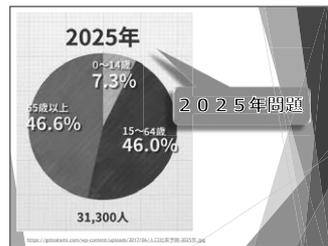
健康寿命

自立して健康に生活ができる



京都の取り組み

- ▶ きょうと健やか21  
健康寿命を全国トップクラスに
- ▶ 京都・健康寿命向上対策事業  
健康寿命を5年で1歳のばす



「如何にして健康に年をとるか」

↓

“健康寿命の延伸”

ヘルスケアに應用

↓

代謝物やたんぱく質

↓

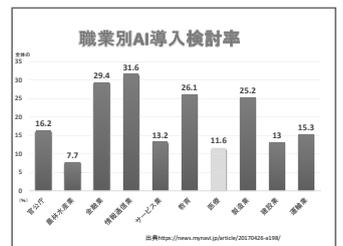
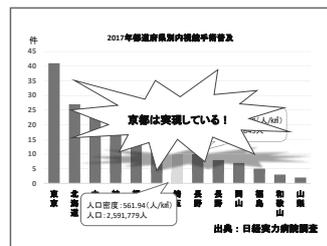
病気の兆し

診断  
治療  
予防(超早期診断)  
予後(回復のフォローアップ)

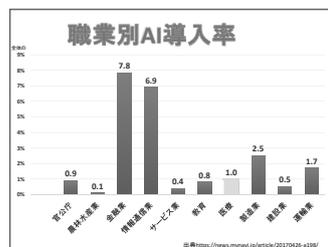
介護用ロボット

リハビリ用ロボット

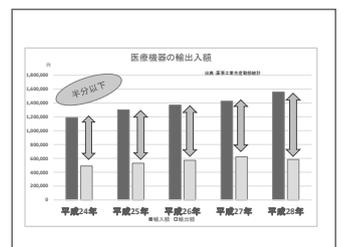
手術用ロボット



実際に導入されている率はどのくらいなのか?



医師が求める医療機器とは



原因

- ①輸入品の導入費の方が安い
- ②機能が劣っている(画像処理, 分析力)

日本→

↓アメリカ

斬新なアイデア  
積極性

より良い製品を生むために

- ▶ 企業とのコラボレーションの実現
- ▶ 多方面からものを見る力

まとめ

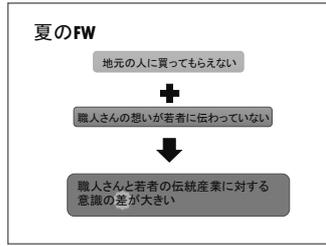
- ▶ 技術, 発想力の向上





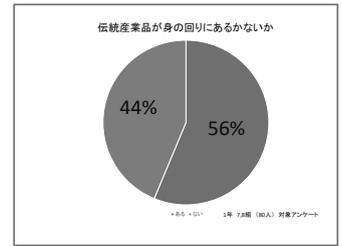
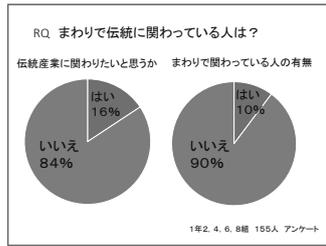
課題研究発表会資料

1-8 9 班



RQ.

どうして伝統産業は身近ではないのだろうか



RQ 若者の伝統産業に対する考え

「高級品」「難しそうなイメージ」など

9組アンケートより

RQ 職人の伝統産業に対する考え

「もっと気軽に職人と触れ合ってほしい」

「日本独特の文化は残していきたい」

9組インタビューより

RQ4: 地域への影響

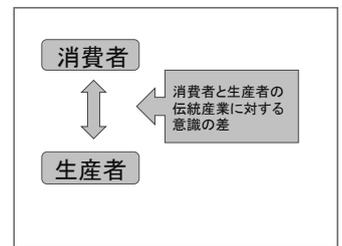
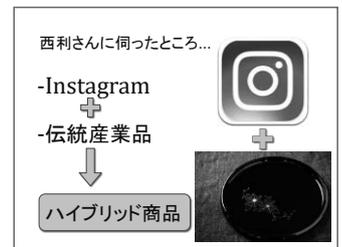
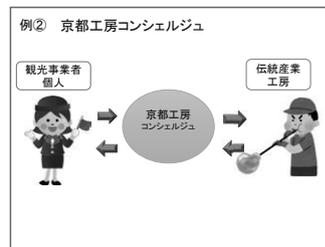
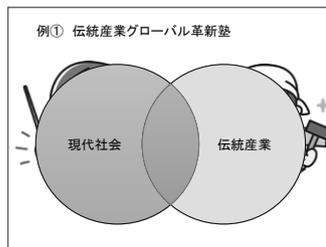
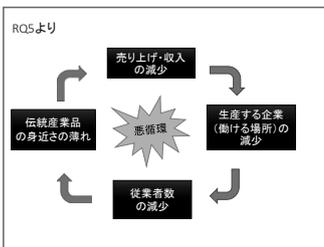
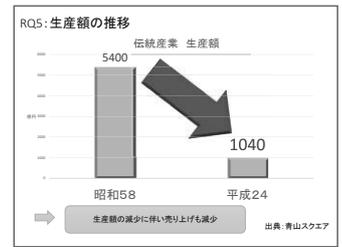
西陣焼け以前(1730)

→ 西陣全体が栄えていた 機業地160余町

西陣焼け以降

→ 機業地160余町のうち108余町が被災

需要の減少にも大きな影響を与えた



出典

<https://shikinishi.com/traditionalcrafts-info>

<https://www.kyotoarts.com/>

<https://bc.doshisha.ac.jp/bakushin/>

[https://www5.city.kyoto.jp/kyo/kyo\\_102.cgi?CT=30&KD=7937](https://www5.city.kyoto.jp/kyo/kyo_102.cgi?CT=30&KD=7937)

<https://minkara.careview.co.jp/users/41773801/blog/58132938/>

<https://hadasee.com/post-1233>

<http://www.city.kyoto.lg.jp/kamiyaro/page/0000012488.html>

[https://www.krasutoya.com/2013/09/blog-post\\_7758.html](https://www.krasutoya.com/2013/09/blog-post_7758.html)

<https://www.nishin.co.jp/news/646/resipic/cook06/>

[https://www.museum.kyoto.go.jp/kyoto/detail.php?roadview\\_id=468](https://www.museum.kyoto.go.jp/kyoto/detail.php?roadview_id=468)

<http://kyoipshin.jp/association/state/>

ありがとうございました

# 平成30年度 イノベーション探究 I 校内課題研究発表会評価票

平成31年2月23日(土)

評価者	
研究グループ	-

	関心・意欲・態度		論理的思考力・判断力・表現力		協働力・他者理解力		知識・理解
	「京の智」発見力	分析力	表現力	協働力	調査力		
A: 完璧 (Great)	「京の智」を再発見し、「京の智」を継承する意義を見出して発信することができた。	「京の智」を継承するにあたっての課題を見つけ、資料を根拠として多角的に分析し、解決方法を提案することができた。	聞き手を引きつけるような、効果的なプレゼンテーションができた。	研究グループで協働的に役割分担をして探究・発表を行い、各自が十分に役割を果たすことができた。	書籍やインターネットを用いて文献調査を行い、インタビュー調査を十分に実施して、資料を収集した。		
B: 合格 (Good)	「京の智」の再発見に挑み、「京の智」を継承する意義を見出して発信する努力をした。	「京の智」を継承するにあたっての課題を見つけ、資料を根拠として分析し、解決方法を提案することができた。	聞き手に伝わるプレゼンテーションができた。	研究グループで協働的に役割分担をして、探究・発表ができた。	書籍やインターネットを用いて文献調査を行い、インタビュー調査も実施して、資料を収集した。		
C: がんばろう (Needs Work)	「京の智」を再発見できなかった。	「京の智」を継承するにあたっての課題を見つけ、分析することができなかった。	聞き手に伝わるプレゼンテーションができなかった。	研究グループで協働することができなかった。	インターネットのみで文献調査を行い、資料を収集した。		
評価記入欄 A~C							
よりよい研究発表にするための方策							

※「京の智」とは・・・京にまつわる様々な営みを探究したことで改めて気づいた、京都で生まれ今後も遺していくべき価値のこと

総合評価 (A~C)
------------

**「イノベーション探究Ⅱ」**  
～グローバル・ジャスティスプログラム～  
実践報告

平成30年度「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～ 年間概要

学期	回	月日	内容	海外研修	教科横断	連携
1 学期	1	4月21日(土)	春休み課題図書読書成果発表会、ガイダンス(趣旨説明)		グローバル・ 京都の風土・ コミュニケーションⅡ	高大 高社 高大 高大社
	2	4月28日(土)	研究グループ決定・研究テーマ検討			
	3	5月12日(土)	講義及びワークショップ「鳥羽高校の課題研究について」 京都光華女子大学 乾明紀准教授			
	4	5月26日(土)	国立民族学博物館フィールドワーク 特別展示・常設展示見学 *「京都の風土・世界の風土」との共催(1~4限)			
	5	6月9日(土)	講義及びワークショップ「よい研究発表とはどのようなものか？」 大阪大学 進藤修一教授 柿澤寿信講師			
	6	6月23日(土)	「研究計画書」Ver.1作成			
	7	7月7日(土)	豪雨のため休業(9/29へ)			
		7月11日(水)~15日(日)	鳥羽グローバル・サミット			高大社
夏 休み		7月30日(月)	経営者インターンシップ * 関連2グループ参加	SGH 韓国研修		高社  高大
			大阪大学アカデミック・ライティング講座「調査シート」作成、読書			
		8月17日(金)	大阪大学豊中キャンパス 講義及びワークショップ「アカデミック・ライティング講座」 大阪大学 堀一成准教授 坂尻彰宏准教授 進藤修一教授 大阪大学TA6名			
2 学期	7	9月15日(土)		SGH 上海研修	グローバル・ 京都の風土・ コミュニケーションⅡ	高大  高大社 高大社 高大
	8	9月22日(土)	「研究計画書」Ver.2作成			
	9	9月29日(土)				
	10	10月27日(土)	「研究計画書」Ver.2を用いたポスターセッションリハーサル 大阪大学 進藤修一教授 大阪大学TA10名			
	11	11月10日(土)*1~4限	ポスターセッション最終準備 (ポスター及び原稿修正、想定問答集作成)			
	12	11月15日(木)	SGH事業研究発表会 ポスターセッション(課題研究中間発表)			
		11月23日(金・祝)	午後 京都中小企業家同友会高大社連携研修事業 (中小企業会館)* 関連6グループ参加			
	13	12月8日(土)	「研究計画書」Ver.3作成 午後 高大連携教育フォーラム(キャンパスプラザ京都) * 代表者参加			
14	12月15日(土)	「研究計画書」Ver.3完成・「研究ノート」作成 全日 SGH全国高校生フォーラム(東京国際フォーラム) * 代表1グループ参加(英語発表)				
冬 休み			SGH 台湾研修			
3 学期	15	1月12日(土)*1~4限	「研究ノート」作成	シンガポール 研修	京都の風土・ 世界の風土	
		1月21日(月)~25日(金)	シンガポール研修(全員)			
	16	2月2日(土)*1~4限	「研究ノート」作成・完成 グローバルネットワーク京都交流会(京都工芸繊維大学)ポ スターセッション* 代表3グループ参加			
	17	2月23日(土)	「研究ノート」輪読 まとめ・省察、「イノベーション探究Ⅲ」に向けて			
		3月23日(土)	SGH甲子園(関西学院大学)ポスターセッション* 代表1グループ参加			
春 休み						
			英語エッセイ作成			

## 「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～ 第1回

### 1. 実施日

平成30年4月21日（土）3・4限

### 2. 場所

1棟多目的教室

### 3. 講師

鳥羽高等学校 教諭 渋谷善史 宇川和余 竹林祥子 田中誠樹



### 4. 内容

#### ガイダンス（趣旨説明）

- (1) はじめに
- (2) 「イノベーション探究Ⅱ」の年間概要
- (3) 「イノベーション探究Ⅱ」ガイダンス
  - ① 課題研究の概要（『課題研究メソッド』）
  - ② 課題研究をすすめる上での注意点（『課題研究メソッド』）
  - ③ 「イノベーション探究Ⅰ」と「イノベーション探究Ⅱ」の比較  
3領域の概要説明
  - ④ グローバル・イシューとは何か（資料「国連持続可能な開発目標」）
  - ⑤ 研究領域とテーマの例（『課題研究メソッド』）  
(資料「SGH甲子園」課題研究ポスター発表要旨)
- (4) ワークシート「課題研究テーマを考えよう！」記入・回収

#### 春休み課題図書読書の読書成果発表

「イノベーション探究Ⅰ」の最終回で紹介された参考図書リスト（それ以外でもよい）から選んだ本の読書レポートをもとに、グループ内で相互に本の紹介をする。

- |                                      |
|--------------------------------------|
| 1 グループ4人が基本                          |
| 1人2分発表（アウトプット）→2分質疑応答（ディスカッション） ×人数回 |

#### 振り返りと次回からの展望

### 5. 次回への課題

自分が興味・関心を持つ課題研究テーマについて考える。

### 6. 学び

アウトプットやディスカッションを前提とした読書が、読書の質を高め問題意識を広げることが体得する。一年次に再発見した「京の智」を土台に、異文化理解・多文化協働をとおした探究の必要性を理解する。さらに、グローバル・イシューの解決に向けて、仮説構築を行うことをとおして、ソーシャル・イノベーションの主体者になる意識を持つ。

## 「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～ 第2回

### 1. 実施日

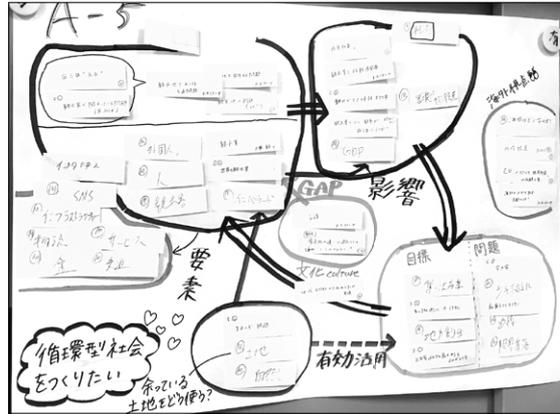
平成30年4月28日（土）3・4限

### 2. 場所

1棟多目的教室

### 3. 講師

鳥羽高等学校 教諭 渋谷善史 宇川和余  
竹林祥子 田中誠樹



キーワードマップ例

### 4. 内容

#### 研究グループの編成

第1回での調査をもとに、伝統・文化領域、エリア・スタディ領域、サイエンス領域に分かれ、それぞれの領域内において、4人を基本として研究グループを編成。

#### 研究テーマを見つける (『課題研究メソッド』 p42～p47)

##### (1) 各自の興味・関心を確認する

各自が興味・関心を持った分野やテーマについて、それぞれが研究グループメンバーに紹介。

\*「課題研究テーマを考えよう!」を返却し使用

##### (2) 分野・研究テーマについての知識・理解を深める

###### ① キーワードカードの作成

各研究グループの研究分野に関するキーワードを各自が付箋に書き出す。

###### ② キーワードマップの作成…キーワードの図解化

付箋をA2用紙に貼り付けてグルーピングし、グループ間の関係を図解化する。ここで、不明な点や疑問が生じる。この疑問を研究テーマの決定につなげる。

##### (3) 研究テーマ(仮)を決定する

①②をもとに、各研究グループにおける研究テーマ(仮)を決定する。

\*「研究テーマ(仮)決定シート」を使用

##### (4) 先行研究を検索するための準備

キーワードを複数あげる。

\*「先行研究検索シート」を使用

### 5. 次回への課題

研究テーマ(仮)を決定したうえで、次回の講義及びワークショップ「よい研究発表とはどのようなものか?」に臨む。また、研究テーマ(仮)に関する先行研究(論文)を検索し、「先行研究検索シート」に記す。

### 6. 学び

研究を進め、リサーチクエスチョンを構築するにあたっては、興味・関心があるテーマへの深い理解が必要であることを理解し、研究テーマ(仮)を決定する。また、先行研究にあたる重要性を理解し、先行研究の検索方法を知る。

## 「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～ 第3回

### 1. 実施日

平成30年5月12日（土）3・4限

### 2. 場所

1棟多目的教室

### 3. 講師

京都光華女子大学 キャリア形成学科 准教授 乾明紀先生

### 4. 内容

講義及びワークショップ

「鳥羽高校の課題研究について」

(1) イントロダクション

(2) 「課題研究」はなぜ必要か？

－「課題研究」の必要性をプチ課題研究する－

(3) 課題研究の方法を知る

①鳥羽高校の課題研究プロセス

②研究テーマ設定のコツ

(4) ワークショップ 仮テーマにツッコミを入れる

\* 「ツッコミのための問い一覧＝ツッコミシート」を使用

### 5. 次回への課題

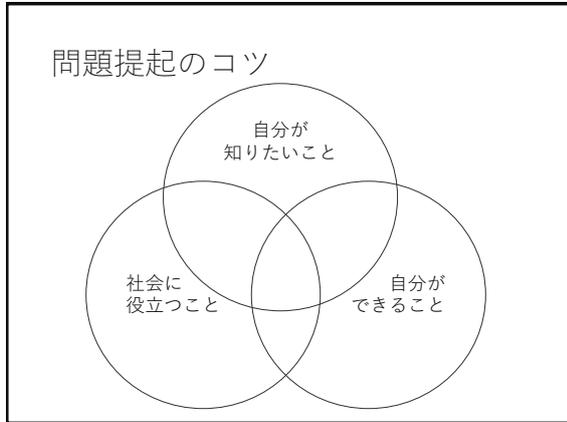
「研究計画書」Ver. 1作成に向けた情報収集や論文検索を各自で行う。

### 6. 学び

課題研究の必要性を理解し、主体的に課題研究に取り組む意欲を高める。研究テーマ設定のコツを知り、研究テーマ（仮）が妥当かどうかを検証する。また、リサーチクエスチョンを導くには、「どこの？」「誰の？」「いつの？」「どのように？」といった小さな問いで、研究テーマを掘り下げていく必要があることを学ぶ。この繰り返しにより課題研究の考察の質を高めることができることを知る。



京都光華女子大学ワークショップ  
「鳥羽高校の課題研究について」（抜粋）



問題設定あるある

① 「自分がやりたいこと」×「社会に役立つこと」で設定した問題は大きくなる傾向がある

② 問題提起したものの実像がよくわかっていない

① 「自分がやりたいこと」×「社会に役立つこと」で設定した問題は大きくなる傾向がある

- 理由はみんなの「やる気」。
- 悪いことではないが、「一発逆転特大ホームラン級」の研究は、お金と年月が必要。

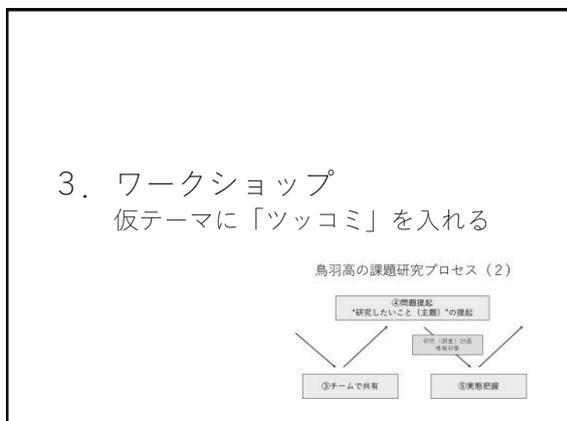
⇒提起した包括的な問題に「ツッコミ」を入れて、小さいがオリジナリティのあるものにしていきます。

②問題提起したものの実像がよくわかっていない

- 若者はわからないことが多い。
- でも、研究は知識と経験がものをいう世界。

⇒提起した問題を自らが知るために、調査をおこないます（＝調べ学習）

⇒こちらに必要なのは「ツッコミ」です



ワーク②

- 別紙「ツッコミのための問い一覧」を参考に、どんな「⑦実態把握」（調査）をしたらいいのかわ戦会議
- 作戦会議の結果を調査計画に落とし込みます。

※しっかり調査計画をたて、それに基づき調査ができれば、6月23日には良いリサーチクエストが作れると思います。

## ツッコミのための問い一覧＝ツッコミシート

ぶつける問い	取り出される問いの例
<ul style="list-style-type: none"> <li>① 本当に？＜信憑性＞</li> <li>② どういう意味？＜定義＞</li> <li>③ いつ（から／まで）？＜時間＞</li> <li>④ どこで？＜空間＞</li> <li>⑤ だれ？＜主体＞</li> <li>⑥ いかにして？＜経緯＞</li> <li>⑦ どんなで？＜様態＞</li> <li>⑧ どうやって？＜方法＞</li> <li>⑨ なぜ？＜因果＞</li> <li>⑩ 他ではどうか？＜比較＞</li> <li>⑪ これについては？＜特殊性＞</li> <li>⑫ これだけか？＜一般化＞</li> <li>⑬ すべてそうなのか？＜限定＞</li> <li>⑭ どうすべきか？＜当為＞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学力低下と呼ばれる現状は本当に生じているのか</li> <li>② そもそも「学力」とは何か／どう定義されているか</li> <li>③ いつから学力が低下し始めたか、かつては学力低下現象はなかったのか</li> <li>④ 他の国では学力低下現象は見られないのか</li> <li>⑤ だれが学力低下を主張しているのか／だれ（どの層の学生）の学力が低下している（と言われている）のか</li> <li>⑥ どのような過程で学力が低下していったのか（急にか、徐々にか）</li> <li>⑦ 学力低下の現状はどうなっているのか</li> <li>⑧ どうやって学力低下の存在を確かめたのか</li> <li>⑨ 学力低下の原因は何か</li> <li>⑩ 教科によって学力低下に違いはあるのか／地域によって学力低下に違いはあるのか</li> <li>⑪ このケースは学力低下現象なのか</li> <li>⑫ 学力以外の能力も低下しているのではないか／学力低下は他のより広い能力の低下の現れではないか</li> <li>⑬ すべての科目で学力の低下があるのか</li> <li>⑭ 学力低下にどう対応すべきか</li> </ul>

戸田山和久（2012）『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK ブックス より

## 「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～ 第4回 「京都の風土・世界の風土」共催

### 1. 実施日

平成30年5月26日（土）1～4限

### 2. 場所

国立民族学博物館  
大阪府吹田市千里万博公園10-1

### 3. 講師・引率

国立民族学博物館 企画課 標本資料係 小関万緒 先生  
鳥羽高等学校 校長 山埜茂彦  
教諭 青木泰嘉 田中誠樹 渋谷善史 宇川和余 竹林祥子

### 4. 内容

#### 国立民族学博物館フィールドワーク

- (1) ワークショップ「博物館の仕事いろいろ」  
国立民族学博物館企画課標本資料係 小関万緒先生
- (2) 資料収蔵庫見学
- (3) [開館40周年記念特別展]「太陽の塔からみんぱくへー70年万博収集資料」見学
- (4) 常設展示見学

### 5. 次回への課題

「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～においては、様々な価値観を相対化する力の獲得をめざしている。人類規模・地球規模の視野で研究する大切さを理解して、自分たちの研究テーマを見つめ直し、具体化していく。

### 6. 学び

博物館でのさまざまな仕事をとおして、博物館で働くひとびとが何をおもい、何をまもり、何を伝えようとしてされているのかを考える、また、民族・宗教・文化について考え、人類文化の普遍性、多様性をふまえて共生する世界をめざして人類規模・地球規模で考える態度を涵養する。

さらに、博物館の機能や学芸員の仕事について知ることで、チームによって資料が守られていること等にも気づき、キャリア観形成の一助とする。



## 「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～ 第5回

### 1. 実施日

平成30年6月9日（土）3・4限

### 2. 場所

生物講義室・7棟多目的教室

### 3. 講師

大阪大学 副理事・言語文化研究科 教授 進藤修一先生

大阪大学 全学教育推進機構 講師 柿澤寿信先生

### 4. 内容

講義及びワークショップ 「よい研究発表とはどのようなものか？」

- (1) 本日の目的と進め方
- (2) よく見かける研究発表のパターン
- (3) よい研究発表の条件
  - ①研究目的が明確であること
  - ②思考に分析（分けること）と論理（つなげること）が含まれていること
  - ③的をしぼった調査ができていること
- (4) 明確な研究目的とは
  - ①「主題」・「トピック」・「仮説」
    - 「主題」…漠然とした大きな関心領域
    - 「トピック」…具体的に特定された研究対象
    - 「仮説」…トピックに関する「因果」あるいは「比較」を含む予想
  - ②トピックの5要件（研究する意義があるか 研究する本人が興味を持てるか 本人の力量で扱いきれるか 必要な情報が集められそうか 内容に新しさがあるか）
  - ③「主題」・「トピック」・「仮説」を考える
- (5) 分析的思考／論理的思考とは
  - ①定義 分析とは「分ける」こと 論理とは「つなげる」こと
  - ②「分ける」考え方 仮説設定に関して
  - ③「つなげる」考え方 議論の筋道 根拠づけ ピラミッド構造
- (6) 的をしぼった調査とは
  - ①何をすべきか
  - ②論点の明確化
  - ③情報の取捨選択
- (7) まとめ

### 5. 次回への課題

今回学んだよい研究発表の条件を理解したうえで、次回以降、取り組むべき課題の明確化を図り、「研究計画書」Ver. 1の作成を進める。

### 6. 学び

①研究目的が明確であること ②思考に分析と論理が含まれていること ③的をしぼった調査ができていること 以上3点がよい研究発表の条件であることを理解し、自分たちの課題研究を進める。

# 大阪大学ワークショップ

## 「よい研究発表とはどのようなものか？」 (抜粋)

### 4. 明確な研究目的とは (2)トピックの5要件

「トピック」とは具体的で、主題と関係しており、かつ、自分たちの力でしっかりと研究できそうなものでなくてはならない。

**主題 (Subject area)** B国の交通渋滞を解決する。

**トピック (Topic)** B国xx市の幹線道路における交通渋滞を緩和する方策を提言する。

**仮説 (Hypothesis)** バイクの通行量を減らすことが、xx市幹線道路の渋滞緩和策として最も効果がある。

トピックの5要件<sup>\*1</sup>

- ① 研究する意義があるか
- ② 研究する本人が興味を持てるか
- ③ 本人の力量で扱いきれるか
- ④ 必要な情報が集められそうか
- ⑤ 内容に新しさがあるか

\*1 参考: 澤田昭夫(1977)「論文の書き方」第1章、講談社

### 5-1. 「分ける」考え方 (2)仮説設定に関する例(2/3)-解答例1

例えば、木材を輸入する側(A国)の対応と、輸出する側(B国)の対応に分けて、それぞれについて仮説を考えることができる。  
続いて、仮説1について、もう一段階掘り下げてみよう。

**B国の森林伐採を減らしたい**

仮説1  
A国がB国からの木材輸入量を減らすことによって、B国の森林伐採を減らせる

仮説2  
B国自身が木材輸出量を減らすことによって、B国の森林伐採を減らせる

仮説1-1  
A国は、○○○○することによって、B国からの木材輸入量を減らせる

仮説1-2  
A国は、××××することによって、B国からの木材輸入量を減らせる

### 5-2. 「つなげる」考え方 (2)根拠づけ(1/3)

仮説1-1の正しさを説得的に語るためには、「紙の消費量を減らす具体策が本当にあるのか？」ということ(論点)を、根拠に基づいて確認しておくなくてはならない。

A国内の紙の消費量を減らす → すると、B国の木材輸出量が減る → すると、B国内の森林伐採が減る

論点1  
紙の消費量を減らす具体策は？

論点2  
紙の消費量を減らすことによる影響は？

現実味があるかどうかを調査して、根拠となる情報を収集する。(後述)

### 6. 的をしぼった調査とは (2)論点の明確化

先ほど述べたように、まずは論点(何を確認すべきか)が抽出されなくてはならない。

論点抽出の例

仮説: 太陽光発電の普及により、電力の安定供給と環境保全を両立できる

普及させることは可能か

他より安く売ることができるか

利用者は多く存在するか

電力の安定供給は可能か

発電量は十分か

長期継続的に発電できるか

環境への負荷は小さいか

建設時の負荷は小さいか

発電中の負荷は小さいか

詳細な論点 (Sub issues)

### 6. 的をしぼった調査とは (3)情報の取捨選択(1/2)

それぞれの論点について、「分からないことを減らす」のに役立つ情報を収集する。それ以外の情報は、聞き手の理解を妨げるノイズになるので、排除する。

論点  
B国xx市の幹線道路では、バイクの通行量が多すぎるのか?

実際に計測したところ、幹線道路のバイク通行台数は、1時間当たり平均250台、信号待ちに並ぶ平均台数は30台であった。

論点について、「分からないことを減らす」のに役立つ情報

幹線道路を走っているバイクの7割は、日本製の中古車である。

論点1についての判断に役立つ「ノイズ」

### 7. まとめ

よい研究発表の条件とは:

- 研究目的が明確であること
  - ・ 「主題」、「トピック」、「仮説」があること
  - トピックは、「トピックの5条件」を満たすこと
  - 仮説は、「因果」あるいは「比較」を含むこと
- 思考に分析(分けること)と論理(つなげること)が含まれていること
  - ・ 仮説や論点をきちんと分けていること(分析)
  - ・ 根拠と結論、あるいは仮説どうしの適切につながっていること(論理)
- 的をしぼった調査ができていること
  - ・ 論点、つまり何を確認すべきかが、予め明確にされていること
  - ・ 論点の検証に役立つ情報だけが取捨選択されていること

## 「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～ 第6回

### 1. 実施日

平成30年6月23日（土）3・4限

### 2. 場所

7棟多目的教室

### 3. 講師・助言者

鳥羽高等学校 教諭 渋谷善史 宇川和余 竹林祥子 田中誠樹  
京都光華女子大学 キャリア形成学科 准教授 乾明紀先生

### 4. 内容

#### 「先行研究の確認」

「先行研究検索シート」を用いて、研究グループ内で情報交換をする。

#### 「研究計画書」Ver.1作成

##### (1) 最初の研究テーマ＝主題

現時点でのテーマ＝主題を仮決定する。研究テーマは、研究を進めるなかで更新されてもかまわない。

##### (2) 研究の動機・問題の背景

現時点での研究動機をまとめる。問題の背景は研究を進めながら追加する。

##### (3) 当初のリサーチクエスション＝トピックを疑問文にしたもの

トピックの3要件を満たすトピックを決定し、それをリサーチクエスションにする。

##### (4) 掘り下げるためのRQ＝当初のRQを明らかにするための小さな問い

RQを掘り下げ、磨くために小さな問いを立て、その検証方法を検討し、調査担当者を決定する。

#### 「調査シート」の確認

課題研究において各自が担当するリサーチクエスションについての「調査シート」を用いて、大阪大学アカデミック・ライティング講座で演習を行うことを確認する。

### 5. 次回への課題

夏休み中に、先行研究論文にあたり、研究テーマに沿った新書を1冊読む。また、大阪大学アカデミック・ライティング講座に向けて「調査シート」を完成させる。

### 6. 学び

最初の研究テーマである主題を具体化しながらトピックを定め、当初のRQを設定する。その際にトピックの3要件を満たしていることに留意する。仮説の構築に至るまでに、当初のRQを掘り下げるために小さな問いを立て、先行研究や関連文献を調査する過程でオリジナリティを加えることができる。

RQを磨くことで、質の高い「研究計画書」が作成でき、各自の役割が明確になり、各自が責任を果たすことで最終的に研究グループ論文が完成することを展望する。

平成30年度 イノベーション探究Ⅱ 「研究計画書」 Ver.1 (Sample)

研究グループ	—
--------	---

リーダー ◎

組	番	氏名

作成月日	平成30年 月 日
------	-----------

0. 最初の研究テーマ＝主題 (Subject area)

自転車事故の原因を探る。

1. 研究の動機・問題の背景

近年、自転車に関わる交通事故の増加が新聞などで取り上げられることが増えた。特に、自転車が加害者となる事故に注目が集まっている。地球環境問題への対応、「エコな生活」への関心の高まり、災害への備え、健康ブームなどから今後も自転車利用は増えていくと予想される。自転車に安全に乗り、歩行者と共存できる環境整備・政策対応が望まれる。自転車先進国であるオランダでは、1980年以降、自動車および自転車ともに年間走行量が大幅に増大したにもかかわらず、両者とも年間交通事故死者数は半減した。自転車先進国北ヨーロッパの各国の事例も参考にし、自転車に安全に乗り、歩行者と共存できる環境整備・政策対応を考える。さらに、この研究は人口増加・経済発展に伴う都市問題＝渋滞問題を抱えるアジア諸国の課題解決にも役立つ。

2. 当初のリサーチクエスチョン(RQ)＝トピック(Topic)を疑問文にしたもの

なぜ自転車が関わる交通事故が起こるのか。自転車事故(特に自転車が加害者となる事故)が増えているとしたら、それはなぜか。自転車事故を防ぐにはどうすればよいか。

3. 掘り下げのためのRQ＝当初のRQを明らかにするための小さな問い \*研究グループのメンバー数以上

**RQ①**  
 そもそも自転車事故は増えているのか。  
 調査方法  
 自転車乗用中の交通事故死者数と負傷者数を調べる。(警察庁のデータ)  
 調査担当者( )

**RQ②**  
 自転車が加害者となる事故は増えているのか。  
 調査方法  
 自転車の対歩行者事故件数を調べる。(警察庁のデータ)  
 調査担当者( )

**RQ③**  
 自転車の交通量は増えているのか。  
 調査方法  
 路上で通過する自転車の台数を測定する。  
 自転車交通量の測定結果を調べる。(都道府県または政令指定都市HP)  
 調査担当者( )

**RQ④**  
 自転車はなぜ歩道を通行するのか。  
 調査方法  
 自転車専用レーンの整備状況となぜ設置できないかを調べる。(国土交通省データ)  
 調査担当者( )

**RQ⑤**  
 自転車に乗っている人のマナーはどうか。  
 調査方法  
 自転車の道路交通法違反件数を調べる。(警察庁のデータ)  
 自転車のマナーについて高校生にアンケートをとる。  
 調査担当者( )

**RQ⑥**  
 海外で交通渋滞解消に向けて、自転車の利用促進を考えている都市はあるのか。  
 調査方法  
 新聞記事等を検索する。  
 調査担当者( )

4. 具体化されたRQ

5. 現時点での仮説(4に対する暫定的な答え)

6. 仮説検証に向けた展望 \*ポスターセッションでの助言や提案をふまえて

11月15日実施ポスターセッション(課題研究中間発表)の後に記入

7. 最終的な研究テーマ＝「研究ノート」の表題 \*40字程度で、問い(RQ)と、現時点での暫定的な答え(仮説)を含むこと

11月15日実施ポスターセッション(課題研究中間発表)の後に記入

## 「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～ 大阪大学アカデミック・ライティング講座

### 1. 実施日

平成30年8月17日（金）13：15～16：15 補習2限終了後、バスで本校より会場へ移動

### 2. 場所

大阪大学豊中キャンパス

### 3. 講師・引率

大阪大学 副理事・言語文化研究科 教授 進藤修一先生

大阪大学 全学教育推進機構 准教授 堀一成先生

大阪大学 全学教育推進機構 准教授 坂尻彰宏先生

T A 立花達也さん（文学研究科） 千坂知世さん（国際公共政策研究科）

篠原恵さん（人間科学研究科） 納田泰成さん（経済学研究科）

井奥智大さん（人間科学研究科） 武内翔さん（基礎工学研究科）

鳥羽高等学校 教諭 渋谷善史 宇川和余 竹林祥子 田中誠樹

### 4. 内容

#### 「アカデミック・ライティング講座」

#### (1) 書くために考える：導入～論拠の検証

①アカデミック・ライティングとは？

②主張を整理し検証する

③論拠（理由・証拠）を吟味する

④例題、「調査シート」を用いた実習（ペアワーク、グループワーク）

#### (2) まねてはいけない！：レポートの注意点

①全体構成・内容の注意点

②アカデミックな倫理の注意点

③形式に関する注意点

④文章表現・詳細部分に関する注意点

⑤バッドレポートを用いた実習（個人、グループワーク）

#### (3) パラグラフ・ライティングをしてみよう

①パラグラフ・ライティングとは？

②パラグラフの構造

③パラグラフ・ライティングの効果

④「パラグラフ・ライティング ワークシート」を用いた実習（個人、ペアワーク）

#### (4) まとめ

### 5. 次回への課題

「研究計画書」作成に向けた情報収集を各自で行うとともに、アカデミック・ライティングの技法を用いて情報をまとめる。

### 6. 学び

事前に準備して臨んだ「調査シート」をもとに、アカデミック・ライティングの作法や手順を学び、「パラグラフ・ライティング ワークシート」による演習をとおして課題研究の質を高める。また、添削していただいた「パラグラフ・ライティング ワークシート」を用いて課題研究を深化させることができることを理解する。

① 書くために考える: 導入～論拠の検証

アカデミック・ライティング(学術的文章)の骨格を理解し、主張を支える理由や証拠を吟味しましょう。

本日の時間割

- ① 書くために考える: 導入～論拠の検証
- ② まねてはいけない! : レポートの注意点
- ③ パラグラフ・ライティングをしてみよう

1

1) アカデミック・ライティングとは?

※ Academic writing = 学術的文章、文章作成

- 「問い(主題)」と「答え(仮説)」のある文章
- 明確な証拠に基づいた科学的な文章
- 思考が整理された分かりやすい文章
- + 学術的ルール(形式・倫理)

2

2) 主張を整理し検証する

- 1) 主張(言いたいこと)を「問い」と「答え」に整理  
= 具体的な問答形式に落とし込む  
「○○とは何か?」=「○○だ」  
「△△すべきか?」=「すべきだ/ではない」
- 2) 5W1H(Who, When, What, Where, Why, How)  
によって具体的に考え、補強する  
= 読み手の疑問(ツッコミ)を想定する

3

3) 論拠(理由・証拠)を吟味する

<主なチェックポイント>

- 基礎となる概念が定義できるか?
- 測定可能か?
- 相似相関関係ではないか?
- 文化・時代の影響はないか?
- + 5W1Hツッコミに耐えるか?

4

【練習問題】

・ 次の文の良くない点は?

**主張**

「最近は基本的な礼儀がなっていない子供が増えているようだ。

朝、道歩いていて近所の子供に『おはようござ  
います』と挨拶されることがめっきり減った。」

**論拠**

5

4) 実習

- 1 ペアワークの練習: 店長・店員ゲーム
- 2 ペアワーク: 仮説・論拠を検討し合う(15分)  
※ 何でも文句をいう(否定する) ≠ 批判的
- 3 グループワーク: グループで情報共有(10分)

6

## 大阪大学アカデミック・ライティング講座

### ② まねてはいけない！レポートの注意点

アカデミックにふさわしい文章には様々な注意点があります。まずは、これを守ることから始めましょう。

- 1) 全体構成・内容の注意点
- 2) アカデミックな倫理の注意点
- 3) 形式に関する注意点
- 4) 文章表現・詳細部分に関する注意点
- 5) 実習

1

### 1) 全体構成・内容の注意点

- 内容は課題や指示と一致したものか？
- 全体でなにが言いたいかが明確か？
- 内容の「問い」と「答え」は明確か？
- 「答え」は「論拠・証拠」に基づいているか？
- 「論拠・証拠」は信頼できるものか？
- 「論拠」から「答え」を導く説明「論証」は妥当か？  
(間違った結論につながる詭弁になっていないか？)
- 「序論・本論・結論」の構成になっているか？
- できる限りパラグラフの集まりで書いているか？

2

### 2) アカデミックな倫理の注意点

- 他人の文章をコピー(剽窃)していないか？
- 関係する情報をできるだけ広く集めているか？  
(論拠情報がネット情報だけになっていないか？)
- 情報を裏付けなしに利用していないか？  
(特にネットから得た情報)
- 他人の成果(意見)と自分の成果(意見)が  
はっきり区別できているか？
- 引用を適切に行っているか？
- 引用文献(参考文献)一覧情報はあるか？
- 図や表にも情報元の説明はあるか？

3

### 3) 形式に関する注意点

- 著者情報(所属・氏名など)は明記しているか？
- 提出日、文章完成日付情報はあるか？
- 内容を凝縮した表題がついているか？  
(科目名だけ書く題は、やめよう)
- 章や節など区切りごとに見出しはあるか？
- 管理された見出し番号がついているか？
- 図や表に番号があるか？
- 図や表の説明(キャプション)はあるか？
- ページ番号があるか？

4

### 4) 文章表現・詳細部分に関する注意点

- 文体は統一されているか？  
(「です/ます」調と「だ/である」調。できれば後者)
- 長すぎる文はないか？
- (主語と述語が対応していない)ねじれ文に  
なっている箇所はないか？
- 推測・私語りの箇所はないか？  
(～だろう。～ではないだろうか。～と思う。など)
- 誤字・脱字・表記のゆれはないか？
- 本論と関係ない事・私的な記述はないか？

5

### 5) 実習

注意点が守られていないダメレポート例を配ります。

- 1 各自ダメレポートを読む。(5分)
- 2 グループワーク:ダメな点を書き出す。  
ホワイトボードに気づいた点を書き出す。  
できれば修正提案も考える。(10分)
- 3 みんなで情報共有:グループボードを  
評価しあう。(15分)

6

③ パラグラフ・ライティングをしてみよう

思考が整理された分かりやすい文章を書くために  
パラグラフ・ライティングを心がけましょう。

- 1) パラグラフ・ライティングとは
- 2) パラグラフの構造
- 3) パラグラフ・ライティングの効果
- 4) 実習

1

1) パラグラフ・ライティングとは

パラグラフ = ある一つの話題についてある  
一つのこと(考え)をいう文のかたまり

- パラグラフの内容は一貫したものか？
- トピックセンテンスがあるか？
- トピックセンテンスは他の文に  
支えられているか？  
= 関係ない文がまざっていないか？

2

【パラグラフの例】(冊子 P21)

▼ トピックセンテンス

大阪大学の総合図書館は、学生の自主学習支援機能の  
充実した図書館である。この図書館の2階フロアには、ラー  
ニング・commons、グローバル・commonsと称する自主学習空  
間が設置されている。2階フロアのほとんどの面積を占める  
commonsスペースには、ディスカッションによる相互学習がし  
やすいよう、形状が工夫された机といす・移動可能なホワイト  
ボード・貸出ノートPCなどが整備されている。また、利用者の  
自主学習を支援するための、職員や担当TAの開催するミ  
ニ講習会も行われている。以上のように、大阪大学の総合  
図書館は自主学習支援機能の充実した図書館であるといえ  
る。

▶ サポートセンテンス

▲ コンクルーディングセンテンス

3

2) パラグラフの構造

◎ トピックセンテンス

= そのパラグラフで説明したい内容の  
核心部分を1文で書き表した文  
※ 位置は冒頭が望ましい

◎ サポートセンテンス

= トピックセンテンス説明・補強・関連付け

◎ コンクルーディングセンテンス

= パラグラフの「まとめ」、必須ではない

4

3) パラグラフ・ライティングの効果

- 1 言いたいこととその順序を自覚しやすい  
※ どこで、なにを言うのか？
- 2 言いたいことの分量や詳しさを意識しやすい  
※ 「箱」の大小・中身、「看板」と店
- 3 レポートの全体と部分の関係を捉えやすい  
※ 計画的な作成 ←→ 散漫で無計画な作成

5

4) 実習

- 1 問いと答えを書き出す(5分)
- 2 トピックセンテンスを書いて検証する(10分)
- 3 パラグラフ作成(15分)
- 4 パラグラフの検討

6

平成30年度 イノベーション探究Ⅱ 大阪大学アカデミック・ライティング講座「調査シート」

研究グループ	—
--------	---

組	番	氏名
---	---	----

作成月日	平成30年	月	日
------	-------	---	---

0. 最初の研究テーマ＝主題 (Subject area)

--

2. 当初のリサーチクエストン (RQ)＝トピック (Topic)を疑問文にしたもの

--

3. RQ ( )←自分が担当するもの

--

調査結果1 (出典も明記すること)

--

調査結果2 (出典も明記すること)

--

調査結果3 (出典も明記すること)

--

自分が調査した結果をふまえた、当初のRQに対しての暫定的な答え・・・可能な限り書く

--

パラグラフ・ライティング ワークシート

A. 問いと答え

調査シートを参考にして、あらためて「問い」と「答え」を書き出しましょう。

問い: 同性婚を認めたときのメリット, デメリット (はありますか?)

答え: デメリットもあるが、メリットもある。

確かに問いと答えは対応していますが、  
メリットかデメリットか、どちらかに  
しぼってうたう。そのメリット(デメリット)  
がどんなふうなものを  
問う方が「意義のある  
議論  
を引き出す  
ことが  
できる」

B. トピックセンテンス

Aの「問い」と「答え」を基に、あなたの主張の核心部分を1文で書き表してみよう。

同性婚を認めたとき デメリットもあるが、メリットもある。

C. パラグラフ

Bに書いたトピックセンテンスを最初に書きます。さらに調査シートの調査結果を基に、トピックセンテンスを補足・補強する論拠情報の文を加え、パラグラフを作りましょう。

同性婚を認めたとき、デメリットもあるが、

メリットもある。メリットの代表例として挙げられるのは、①金銭  
の面 ② 権利の面 ③ 養子制度の面である。

デメリットの代表例としては避妊をして性行為をする人が少いため、  
HIVなどの性病が広がることがある。

現在世間で言われているように、人口減少に悩まされる、婚数回の  
悪用などの証拠はほとんどないため、デメリットとは言えない。

よって、同性婚を認めたとき、デメリットも、メリットも両方  
存在しているといえる。

やはり  
デメリット  
のデメリット  
をデメリット  
として  
挙げて  
あげた方が  
親切でしょう。

前がメリット。  
後がデメリットにふたつあると  
分かりやすく良いです。

事実と  
見かけは  
こと

事実と  
見かけは  
こと

この点の違い  
強調すれば  
同性婚のデメリットと本  
身柄についての実態  
を指すことが生か

領域名 A 班番号 1 氏名

## 「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～ 第7～9回

### 1. 実施日

平成30年9月15・22・29日（土）3・4限

### 2. 場所

15日 1棟多目的教室

22日 CAI教室（エリア・スタディ、サイエンス）、第2CAI教室（伝統・文化）

29日 CAI教室（エリア・スタディ、サイエンス）、第2CAI教室（伝統・文化）

### 3. 講師

鳥羽高等学校 教諭 渋谷善史 宇川和余 竹林祥子 田中誠樹

### 4. 内容

#### 今後の課題研究の流れの理解

「研究計画書」Ver.2＝ポスター作成→ポスターセッションリハーサル  
→ポスターセッション（課題研究中間発表）→「研究計画書」Ver.3＝研究概要作成  
→「研究ノート」（研究グループ論文）（A4・4～6枚）作成

#### 「研究計画書」Ver.2＝ポスター作成

大阪大学でのアカデミック・ライティング講座で作成した「調査シート」及び、添削していただいた「パラグラフ・ライティングワークシート」をもとに、「研究計画書」Ver.2を作成し、完成させる。これがそのままポスターセッションで使用するポスターとなる。また、ポスターセッションに備え、発表原稿や想定問答集を作成する。

「研究計画書」Ver.2はデータ入力をする。コンピュータは各グループ2台とする。「グループの略称－番号 日本語のキーワード」をつけて保存する（例：TC-6 中小企業経営課題）。紙での提出は不要。

### 5. 次回への課題

ポスターセッションリハーサル（10月27日）に向けて、「研究計画書」Ver.2を完成させ、発表原稿や想定問答集を作成する。

### 6. 学び

「研究計画書」の作成をとおして、①現状の理解 ②現状の確認・分析 ③仮説構築 ④論理的な文章の作成 を行う。また、各自の役割を明確にし、各自が責任をもって協働で課題研究に取り組む。

# 平成30年度 イノベーション探究Ⅱ「研究計画書」Ver.2＝ポスター(Sample)

研究グループ	—
作成日	平成30年 月 日

リーダー◎

組	番	氏名

## 0. 最初の研究テーマ＝主題(Subject area)

自転車事故の原因を探る。

## 1. 研究の動機・問題の背景

近年、自転車に関わる交通事故の増加が新聞などで取り上げられることが増えた。特に、自転車が加害者となる事故に注目が集まっている。地球環境問題への対応、「エコな生活」への関心の高まり、災害への備え、健康ブームなどから今後も自転車利用は増えていくと予想される。自転車に安全に乗れ、歩行者と共存できる環境整備・政策対応が望まれる。自転車先進国であるオランダでは、1980年以降、自動車および自転車ともに年間走行量が大幅に増大したにもかかわらず、両者とも年間交通事故死者数は半減した。自転車先進国北ヨーロッパの各国の事例も参考にし、自転車に安全に乗れ、歩行者と共存できる環境整備・政策対応を考える。さらに、この研究は人口増加・経済発展に伴う都市問題＝渋滞問題を抱えるアジア諸国の課題解決にも役立つ。

## 2. 当初のリサーチクエスチョン(RQ)＝トピック(Topic)を疑問文にしたもの

なぜ自転車に関わる交通事故が起こるのか。自転車事故(特に自転車加害者となる事故)が増えているとしたら、それはなぜか。自転車事故を防ぐにはどうすればよいか。

## 3. 掘り下げるためのRQ＝当初のRQを明らかにするための小さな問い \*研究グループのメンバー数以上

### RQ①

そもそも自転車事故は増えているのか。

調査結果  
1955年～2010年の過去20年間で交通事故死者数は6割減少しているが、自転車乗用中の死者数は5割減と減少幅が小さい。自転車先進国である欧米諸国と比較して、人口あたり自転車乗用中死者数の割合が高い。

出典:IRTAD交通事故統計データ、Road Safety Annual Report 2014

### RQ②

自転車加害者となる事故は増えているのか。

調査結果  
交通事故の総件数は、2000年から2010年で約2割減少しているが、自転車対歩行者の事故は、約1.5倍に増えている。自転車との事故を経験した歩行者のうち、約8割は警察に届けておらず、事故統計に表れるのは氷山の一角と言える。

出典:警察庁統計、平成18年度自転車乗用環境の整備改善に関する調査事業報告書

### RQ③

自転車の交通量は増えているのか。

調査結果  
自転車の交通量のデータは見つからなかったため、自転車の保有台数を調べることにした。自転車の保有台数は、年によって増減はあるものの、中期的には増加傾向にあり、2008年には約6,900万台となっている。主な欧州諸都市と比較しても、東京や大阪の自転車分担率は比較的高い。

出典:(社)自転車協会資料、Urban Transport Benchmarking Initiative Year Two Annex A1 Common Indicator Report

### RQ④

自転車はなぜ歩道を通行するのか。

調査結果  
全国の道路約120万kmのうち、自動車・歩行者と分離された自転車走行空間(自転車道、自転車専用通行帯等)は、わずか約3,000kmにすぎない。一方九州ほどの面積のオランダの自転車道は約18,000kmである。

出典:国土交通省資料、警察庁資料

### RQ⑤

自転車に乗っている人のマナーはどうか。

調査結果  
大半が「車道通行が原則であり、歩道通行は例外である」とことを知っているが、「あまり守らない」「守らないことがある」と回答した者が過半数を占める。守れない理由としては「通行環境が不十分」であることを挙げる者が過半数を占めている。

出典:自転車に係る法令遵守意識等に関するアンケート調査(平成23年10月)(警察庁)

### RQ⑥

海外で交通渋滞解消に向けて、自転車の利用促進を考えている都市はあるのか。

調査結果  
公共交通が充実しているロンドンにおいては、都市交通がもたらす交通渋滞、環境への負荷、市民の健康への影響が課題となっている。ロンドン市長はこれらの課題を解決するため2025年までに自転車の利用率を2011年度比400%とする目標を掲げ、2010年にコミュニティサイクルシステムを導入した。通勤、通学の足として活用されている。

出典:世界の自転車政策(自治体国際化協会)

## 4. 具体化されたRQ

交通事故全体が減少しているのに、なぜ自転車対歩行者の事故が増えているのか。

## 5. 現時点での仮説(4に対する暫定的な答え)

自転車と歩行者の混在、自転車専用道路・専用レーンの不足、専用レーンまたは車道通行義務の周知不足が自転車事故の原因となっている。

## 6. 仮説検証に向けた展望 \*ポスターセッションでの助言や提案をふまえて

11月15日実施ポスターセッション(課題研究中間発表)の後に記入  
車道通行義務等をどのように周知すればよいと思うか?という質問をいただいた。今後、交通安全教室の実施状況について、対象世代も含めて調査する。

## 7. 最終的な研究テーマ＝「研究ノート」の表題 \*40字程度で、問い(RQ)と、現時点での暫定的な答え(仮説)を含むこと

11月15日実施ポスターセッション(課題研究中間発表)の後に記入  
自転車道不足及び車道通行義務の周知不足がもたらす自転車対歩行者事故増加(35字)

## 「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～ 第10回

### 1. 実施日

平成30年10月27日（土）3・4限

### 2. 場所

講堂

### 3. 講師

大阪大学 副理事・言語文化研究科 教授 進藤修一先生

T A 森貞誠さん（経営学研究科） 篠原恵さん（人間科学研究科）

岡本達樹さん（基礎工学研究科） 高垣昂佑さん（工学研究科）

狩集晴樹さん（外国語学部） 白川優希さん（歯学部）

田中涼太郎さん（人間科学部） 東中麻美子さん（人間科学部）

二社谷一樹さん（工学部） 滝澤菜穂さん（文学部）

鳥羽高等学校 教諭 宇川和余 竹林祥子 田中誠樹



### 4. 内容

#### 研究計画書を用いたポスターセッションリハーサル

(1) 講師・T A紹介（10:40～10:45）

(2) 本日の目的と進め方（10:45～10:50）

(3) リハーサル

\*発表がない研究グループは、同じボードを用いる他の研究グループを評価。

1回目 エリア・スタディ領域（A 1～A10）

10:50～10:56 発表

10:56～11:02 質疑応答

11:02～11:10 評価、講師・T A講評

2回目 サイエンス領域、伝統・文化領域（S 1・S 2、TC 1～7）

11:10～11:16 発表

11:16～11:22 質疑応答

11:22～11:30 評価、講師・T A講評

(4) 研究グループでの省察（11:40～12:10）

講師・T Aによる巡回指導

(5) 全体講評（12:10～12:30）

講師・T Aによる全体講評



### 5. 次回への課題

今回得た評価・コメント、講評をもとに、11月15日のポスターセッション（課題研究中間発表）に向けて、ポスターや原稿をブラッシュアップし、想定問答集を作成する。

### 6. 学び

発表、質疑応答、評価者からの評価・コメント、講評をとおして、「研究計画書」のリサーチクエスション（2→3→4）のつながりが、課題研究の深化にとっての肝であることを理解し、仮説を再構築する。

平成30年度 イノベーション探究Ⅱ ポスターセッション リハーサル評価票

評価者						平成30年10月27日(土)
研究グループ	A - 2					
	発見力	分析力・調査力		表現力・協働力		
	研究の動機・問題の背景	リサーチクエスション(RQ)	現時点での仮説	最終的な研究テーマ	発表と質疑応答	
関連するポスターの項目番号	1	2→3→4	5	7	全般	
評価基準	A: 完璧 (Great)	現状を十分に理解し、グローバルな視点で多角的に研究を進めようとしている。	研究テーマについて、実態を把握し、原因を分析するために、小さな問い(RQ)を立てて調査することをおして、具体的でオリジナリティのある問い(RQ)を立てている。	「因果」あるいは「比較」を含んだオリジナリティのある仮説になっている。	問い(RQ)や答え(仮説)が明確に読み取れ、説得力がある文章になっている。	グループの全員が発表と質疑応答に参加し、質疑応答によって、参加者の知的好奇心が一層刺激されている。
	B: 合格 (Good)	現状を理解し、グローバルな視点で研究を進めようとしている。	研究テーマについて、実態を把握し、原因を分析するために、小さな問い(RQ)を立てて調査することをおして、具体的な問い(RQ)を立てている。	「因果」あるいは「比較」を含んだ仮説になっている。	問い(RQ)や答え(仮説)が読み取れる文章になっている。	発表と質疑応答を、グループ内で役割分担して行うことができる。
	C: がんばろう (Needs Work)	現状の理解が不十分で、一面的な研究になっている。	小さな問い(RQ)を立てて調査することが不十分のため、研究テーマについての理解が深まっていない。	「因果」も「比較」も含まないあいまいな仮説になっている。	問い(RQ)や答え(仮説)が読み取れる文章になっていない。	発表と質疑応答における役割分担があいまいで、一部の人が行っている。
評価記入欄 A~C	A	B	B	ポスターセッションでは評価しません	B	
よりよい研究にするための方策 教育に成功している国(ロンドンなど)の例を詳しく調べ、日本との違いを明らかにする。頑張る、頑張る!!						

平成30年度 イノベーション探究Ⅱ ポスターセッション評価票

評価者						平成30年11月15日(木)
研究グループ	A - 2					
	発見力	分析力・調査力		表現力・協働力		
	研究の動機・問題の背景	リサーチクエスション(RQ)	現時点での仮説	最終的な研究テーマ	発表と質疑応答	
関連するポスターの項目番号	1	2→3→4	5	7	全般	
評価基準	A: 完璧 (Great)	現状を十分に理解し、グローバルな視点で多角的に研究を進めようとしている。	研究テーマについて、実態を把握し、原因を分析するために、小さな問い(RQ)を立てて調査することをおして、具体的でオリジナリティのある問い(RQ)を立てている。	「因果」あるいは「比較」を含んだオリジナリティのある仮説になっている。	問い(RQ)や答え(仮説)が明確に読み取れ、説得力がある文章になっている。	グループの全員が発表と質疑応答に参加し、質疑応答によって、参加者の知的好奇心が一層刺激されている。
	B: 合格 (Good)	現状を理解し、グローバルな視点で研究を進めようとしている。	研究テーマについて、実態を把握し、原因を分析するために、小さな問い(RQ)を立てて調査することをおして、具体的な問い(RQ)を立てている。	「因果」あるいは「比較」を含んだ仮説になっている。	問い(RQ)や答え(仮説)が読み取れる文章になっている。	発表と質疑応答を、グループ内で役割分担して行うことができる。
	C: がんばろう (Needs Work)	現状の理解が不十分で、一面的な研究になっている。	小さな問い(RQ)を立てて調査することが不十分のため、研究テーマについての理解が深まっていない。	「因果」も「比較」も含まないあいまいな仮説になっている。	問い(RQ)や答え(仮説)が読み取れる文章になっていない。	発表と質疑応答における役割分担があいまいで、一部の人が行っている。
評価記入欄 A~C	A	B	B	ポスターセッションでは評価しません	A	
よりよい研究にするための方策 前回と比べて、より詳細なデータを示せて、よりAレベルになりました! (他国の取り組みの中で、日本でもっと取り入るようなものはあるか?) 比較的、若くは若くはLGBTに理解が深まっている。もっと上の年代にも分かり、もっともらいには?						

(用語は大き)  
差別(年)を豊。

## 「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～ 第11回

### 1. 実施日

平成30年11月10日（土） 1～4限

### 2. 場所

- 1・2限 333教室（エリア・スタディ1～6）  
334教室（エリア・スタディ7～10、サイエンス1・2）  
335教室（伝統・文化1～7）  
3・4限 CAI教室（エリア・スタディ、サイエンス）、第2CAI教室（伝統・文化）

### 3. 講師

鳥羽高等学校 教諭 宇川和余 竹林祥子（3・4限）  
田中誠樹（1～4限）  
青木泰嘉 宮崎雄史郎（1・2限）

### 4. 内容

#### ポスターセッション（課題研究中間発表）最終準備

- 「研究計画書（Ver.2）」＝ポスターを完成させる。
- 発表の補助資料を完成させる。
- 発表原稿、想定問答集を完成させる。
- 最終的な役割分担を確認し、6分間の時間配分も意識してリハーサルを行う。

### 5. 次回への課題

ポスターセッション（課題研究中間発表）（11月15日）に向けて最終確認を行う。

### 6. 学び

前回のポスターセッションリハーサルでの、講師・TA・生徒からの評価・コメント、講評の内容を反映させて、ブラッシュアップされたポスターセッション・課題研究になるようにする。

## 「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～ 第12回

### 1. 実施日

平成30年11月15日（木） 5～7限

### 2. 場所

講堂



### 3. 講師等

文部科学省 初等中等教育局参事官(高等学校担当)付 高校改革事業担当 専門職 矢田裕美氏  
大阪大学 副理事・言語文化研究科 教授 進藤修一先生

京都光華女子大学 キャリア形成学科 准教授 乾明紀先生

京都文化博物館 学芸課 学芸員 西山剛先生

京都国際センター 常任理事 三田康明氏

株式会社桂建材店 代表取締役社長 小原弘也氏

株式会社エージェンシーアシスト 人事・労務チーム 岩田知也氏

大成印刷紙業株式会社 代表取締役 大坂歩氏

日本政策金融公庫 京都創業支援センター 上席所長代理 坂井俊一郎氏

T A (大阪大学) 篠原恵さん (人間科学研究科) 遠藤清人さん (工学研究科)

東中麻美子さん (人間科学部) 植田智之さん (基礎工学部)

滝澤菜穂さん (文学部)

京都府名誉友好大使 張楽楽さん (中国) 李少岩さん (中国) 楊陽さん (中国)

Károlyi Orsolyaさん (ハンガリー) 黄思瑜さん (台湾)

きょうと留学生ハウス Lee Lilithさん (ノルウェー)

Atheer Alsoghayerさん (サウジアラビア)

鳥羽高等学校 教諭 渋谷善史 宇川和余 竹林祥子 田中誠樹

### 4. 内容

**S G H事業研究発表会 ポスターセッション (課題研究中間発表)**

(1) 諸注意

(2) ポスターセッション第1回～第3回 (各回発表6分・質疑応答6分)  
各研究グループ2回発表

(3) 講評

(4) 生徒代表挨拶

(5) 閉会挨拶 (校長)

### 5. 次回への課題

講師・T A・同級生・下級生からの評価内容をしっかりと研究グループで分析し、「研究計画書」Ver. 3＝研究概要に反映させる。

### 6. 学び

講師・T A・同級生・下級生からの評価内容を反映させて、課題研究をブラッシュアップする。

## 「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～ 第13・14回

### 1. 実施日

平成30年12月 8日（土）・15日（土） 3・4限

### 2. 場所

8日 1棟多目的教室

15日 CAI教室（エリア・スタディ、サイエンス）、第2CAI教室（伝統・文化）

### 3. 講師

鳥羽高等学校 教諭 渋谷善史 宇川和余 竹林祥子 田中誠樹

### 4. 内容

#### ポスターセッション（課題研究中間発表）振返り

TA及び参観者による評価票及び生徒による評価票を見て、ポスターセッションを振り返る。TAや参観者による記述内容をしっかりと踏まえて、「研究計画書」Ver.3及び「研究ノート」（研究グループ論文）の作成に反映させる。その際、質疑応答で回答できなかった部分等をしっかりと反映させる。また、掘り下げるためのRQ①～⑥と具体化されたRQとの関連性に留意し、①～⑥の配列も考える。8日には、保護者の参観があるので、ポスターセッションの振返りを反映した状況で、保護者をオーディエンスとして発表を行う。

#### 「研究ノート」（研究グループ論文）作成に向けて

「研究ノート」（研究グループ論文）のサンプルと「研究計画書」Ver.3を見て、作成の方針・意味やフォーマットについて理解する。

#### 「研究計画書」Ver.3＝「研究ノート」に向けた研究概要 作成

研究グループでの役割分担を明確にし、「研究計画書」Ver.3を作成する。なお、この「研究計画書」Ver.3は、「研究ノート」に向けた研究概要であり、次年度大学入試で課題研究の概要を添付する際にも使用するものであることを踏まえる。

### 5. 次回への課題

「研究計画書」Ver.3の作成をとおして、これまでの研究概要をまとめ、明確にした役割分担に基づき、計画的に「研究ノート」の作成を進める。また、根拠となる図表作成のための資料収集を行う。

個人が担当する「研究ノート」第2章第2節の文章の下書きをしておく。

### 6. 学び

「研究計画書」Ver.3の作成を進め、これまでの研究概要をまとめ、役割分担を明確にし、研究グループの協働による「研究ノート」作成の手法を理解する。また、ポスターセッションの振返りを反映した状況で、保護者に向けて発表する機会も得る。

平成30年度 イノベーション探究Ⅱ 「研究計画書」 Ver.3＝「研究ノート」に向けた研究概要

研究グループ	—
--------	---

リーダー ◎	組	番	氏名
	組	番	氏名

作成月日	平成 年 月 日
------	----------

0. 最初の研究テーマ＝主題 (Subject area)

--

1. 研究の動機・問題の背景…「研究ノート」第1章

--

2. 当初のリサーチクエスション (RQ)＝トピック (Topic)を疑問文にしたもの…「研究ノート」第1章

--

3. 掘り下げるためのRQ…「研究ノート」第2章 \*研究グループのメンバー数以上

RQ①…「研究ノート」第2章第2節(1)
調査結果
出典:

RQ②…「研究ノート」第2章第2節(2)
調査結果
出典:

RQ③…「研究ノート」第2章第2節(3)
調査結果
出典:

RQ④…「研究ノート」第2章第2節(4)
調査結果
出典:

RQ⑤…「研究ノート」第2章第2節(5)
調査結果
出典:

RQ⑥…「研究ノート」第2章第2節(6)
調査結果
出典:

4. 具体化されたRQ…「研究ノート」第3章

--

5. 仮説…「研究ノート」第3章

--

6. 仮説検証に向けた展望…「研究ノート」第3章

--

7. 最終的な研究テーマ…「研究ノート」表題 \*40字程度で、問い(RQ)と、答え(仮説)を含むこと

--

## 「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～ 第15・16回

### 1. 実施日

平成31年1月12日（土）・2月2日（土） 1～4限

12日 1・2限 1棟多目的教室（1・2限）

12日 3・4限 CAI教室（エリア・スタディ、サイエンス） 第2CAI教室（伝統・文化）

2日 1～4限 CAI教室（エリア・スタディ、サイエンス） 第2CAI教室（伝統・文化）

### 3. 講師

鳥羽高等学校 教諭 渋谷善史 宇川和余 竹林祥子 田中誠樹 青木泰嘉 宮崎雄史郎

### 4. 内容

#### シンガポールビデオ視聴

シンガポール研修に向けて、シンガポールの多様性を理解する。

\*シンガポール研修では、代表グループがホリバ・インスツルメンツにおいてプレゼンテーションを実施。

#### 「研究ノート」に向けて

「研究ノート」作成のためのワークシートを用いて、Task 1～3の3つの演習を行う。

Task 1 各研究グループの研究の表題を考える。

Task 2 Sampleの第2章第2節（1）を題材にパラグラフ・ライティングする。

Task 3 各自が担当する部分をパラグラフ・ライティングする。

#### 年間アンケート

年間アンケートへの回答をとおして、課題研究への取組による自己変容を確認する。

#### 「研究ノート」の作成・完成

「研究計画書」Ver. 3をもとに「研究ノート」の作成を進め、完成させる。

### 5. 次回への課題

「研究ノート」に必要な資料・データ等を整理し、次回までに完成させる。

### 6. 学び

リサーチクエスションを立て、仮説を構築するまでのプロセスを文章化しつつ、研究グループとしての考察を行う。研究の表題を考える作業やパラグラフ・ライティングをとおして、大阪大学アカデミック・ライティング講座での学びを活用する。

# 「研究ノート」作成のためのワークシート

2年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

## 自転車走行空間の未整備及び交通ルール遵守意識の不足がもたらす 自転車対歩行者事故増加

Task 1 各研究グループの表題を40字以内で考えて、「研究計画書」Ver.3の7に書いてみよう！  
問い（RQ）と仮説を含んだ文章になるようにしよう！

京都府立鳥羽高等学校

2年 組 番 氏名

## 第1章 研究の動機・問題の背景

近年、自転車に関わる交通事故の増加が新聞などで取り上げられることが増えた。特に、自転車が加害者となる事故に注目が集まっている。地球環境問題への対応、「エコな生活」への関心の高まり、災害への備え、健康ブームなどから今後も自転車利用は増えていくと予測される。自転車に安全に乗れ、歩行者と共存できる環境整備・政策対応が望まれる。

自転車先進国であるオランダでは、1980年以降、自動車および自転車ともに年間走行量が大幅に増大したにもかかわらず、両者とも年間交通事故死亡者数は半減した。自転車先進国北ヨーロッパの各国の事例も参考にし、自転車に安全に乗れ、歩行者と共存できる環境整備・政策対応を考える。さらに、この研究は人口増加・経済発展に伴う都市問題＝渋滞問題を抱えるアジア諸国の課題解決にも役立つと考える。

私たちは、なぜ自転車に関わる交通事故が起こるのか。自転車事故（特に自転車が加害者となる事故）が増えているとしたら、それはなぜか。自転車事故を防ぐにはどうすればよいかについて考えた。

## 第2章 研究の目的・方法・結果

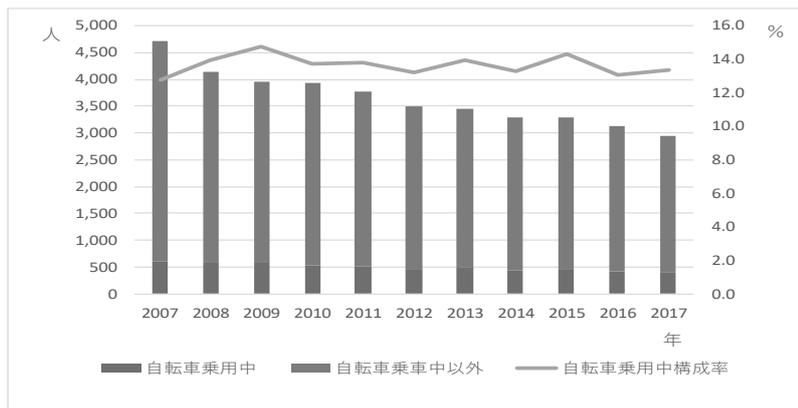
### 第1節 目的

私たちは、自転車事故を防ぐ方法を考えるために、日本における自転車をめぐる現状や海外における自転車政策について、以下の第2節から第7節に記すような調査をした。

**Task 2 このRQに対する答えをパラグラフ・ライティングしてみよう！**  
**参照『阪大生のためのアカデミック・ライティング入門』 p. 19-p. 22**

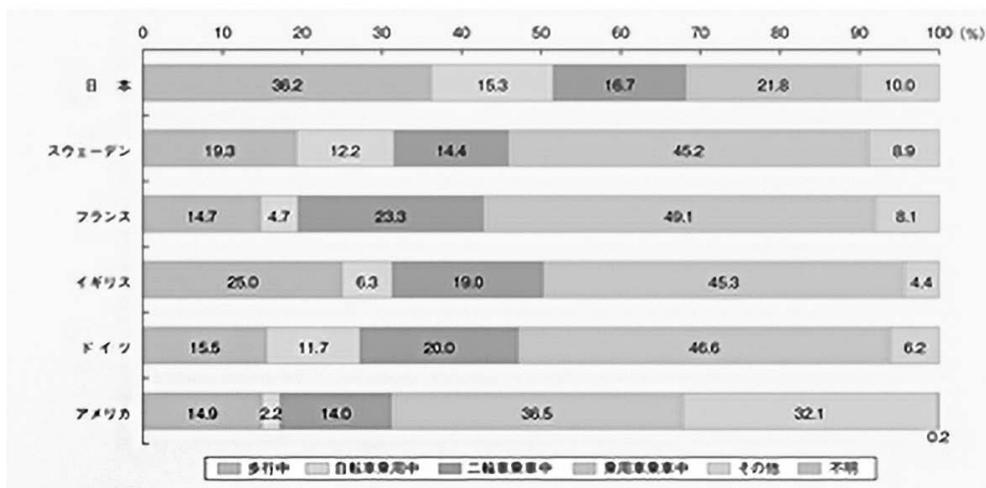
**第2節 方法・結果**

**(1) そもそも自転車事故は増えているのか**



図表1 交通事故死者数の推移

内閣府データ ([http://www8.cao.go.jp/koutu/taisaku/h28kou\\_haku/index\\_zenbun\\_pdf.html#h28](http://www8.cao.go.jp/koutu/taisaku/h28kou_haku/index_zenbun_pdf.html#h28)) より作成



注 1 IKTAD資料による。  
 2 数値は状態別構成率

図表2 主な欧米諸国の状態別交通事故死者数の構成率 (2014年)

交通事故総合分析センターデータより引用

**Task 3** 自分が担当する RQ とそれに対する答えをパラグラフ・ライティングしてみよう！  
参照『阪大生のためのアカデミック・ライティング入門』 p. 19-p. 22

## 第 2 節 方法・結果

( )

セルフチェックリスト（参考文献：『阪大生のためのアカデミック・ライティング入門』）

- トピックセンテンスはすぐにわかりますか？
- トピックセンテンスと関係のないことは書いてありませんか？
- 各文の文体や用いている単語はアカデミック・ライティングにふさわしいものですか？
- 自分の意見を書いていませんか？
- 長すぎる文やねじれ文になっていませんか？

アカデミックライティングの技法を活用しましょう。  
40字程度で、問い(RQ)と、現時点での暫定的な答え(仮説)を含めましょう。

# 「研究ノート」(研究グループ論文)

基本フォーマット  
A4縦置き 横書き  
40字×40行 4～6枚程度  
MS明朝 10.5P 標準  
余白 上下左右30mm

「研究計画書」7より

## 自転車走行空間の未整備及び交通ルール遵守意識の不足が

### もたらす自転車対歩行者事故増加

表題 MSゴシック 16P 太字 40字程度

スペース全角2文字分

氏名等 MSゴシック 11P 太字

京都府立鳥羽高等学校

2年7組20番 鳥羽一太郎

2年7組21番 鳥羽花子

2年7組30番 伏見美奈

2年8組10番 京都健

「である」調○ 「です・ます」調×  
一桁数字全角 二桁以上数字半角

「研究計画書」1・2より

## 第1章 研究の動機・問題の背景

章見出し MSゴシック 14P 太字

近年、自転車に関わる交通事故の増加が新聞などで取り上げられることが増えた。特に、自転車が加害者となる事故に注目が集まっている。地球環境問題への対応、「エコな生活」への関心の高まり、災害への備え、健康ブームなどから今後も自転車利用は増えていくと予測される。自転車に安全に乗れ、歩行者と共存できる環境整備・政策対応が望まれる。

自転車先進国であるオランダでは、1980年以降、自動車および自転車ともに年間走行量が大幅に増大したにもかかわらず、両者とも年間交通事故死亡者数は半減した。自転車先進国北ヨーロッパの各国の事例も参考にし、自転車に安全に乗れ、歩行者と共存できる環境整備・政策対応を考える。さらに、この研究は人口増加・経済発展に伴う都市問題＝渋滞問題を抱えるアジア諸国の課題解決にも役立つと考える。

私たちは、なぜ自転車に関わる交通事故が起こるのか。自転車事故(特に自転車が加害者となる事故)が増えているとしたら、それはなぜか。自転車事故を防ぐにはどうすればよいかについて考えた。

## 第2章 研究の目的・方法・結果

「研究計画書」3より

### 第1節 目的

節見出し MSゴシック 12P 太字

私たちは、自転車事故を防ぐ方法を考えるために、日本における自転車をめぐる現状や海外における自転車政策について、以下の第2節に記すような調査をした。

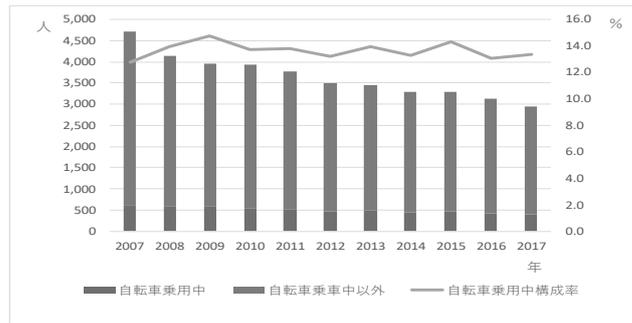
### 第2節 方法・結果

#### (1) そもそも自転車事故は増えているのか(担当:鳥羽一)

自転車事故件数に関する国際比較が可能なデータが見つからなかったため、交通事故死者数の比較をした。

図表1によれば、近年の自転車乗車中の死者数は横ばいか減少傾向にある。2007年から2017年の間に、日本の交通事故死者数は約6割に減少しているが、自転車乗用中の死者数は約6割5分と減少幅はやや小さい。その結果、全交通事故死者に占める自転車乗車中の割合はやや増加している。また、図表2によれば、欧米諸国と比較して、日本は自転車乗用中の死者数の割合が高い。

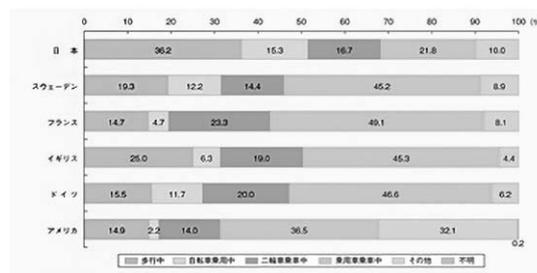
効果的な図表や写真を挿入しましょう。



キャプション・出典  
MS明朝 9P

図表1 交通事故死者数の推移

内閣府データ ([http://www8.cao.go.jp/koutu/taisaku/h28kou\\_haku/index\\_zenbun\\_pdf.html#h28](http://www8.cao.go.jp/koutu/taisaku/h28kou_haku/index_zenbun_pdf.html#h28))  
より作成



図表2 主な欧米諸国の状態別交通事故死者数の構成率 (2014年)  
交通事故総合分析センターデータより引用

ポスターセッションでの意見を踏まえ、RQを、変更しなくても構いません。

**(2) 自転車対歩行者の事故は増えているのか (担当：伏見)**

(省略)

**(3) 自転車の交通量は増えているのか (担当：鳥羽花)**

(省略)

**(4) 自転車はなぜ歩道を通行するのか (担当：鳥羽一)**

(省略)

**(5) 自転車に乗っている人のマナーはどうか (担当：京都)**

(省略)

## (6) 海外で交通渋滞解消に向けて、自転車の利用促進を考えている都市はあるのか（担当：鳥羽花）

公共交通が充実しているロンドンにおいては、都市交通がもたらす交通渋滞、環境への負荷、市民の健康への影響が課題となっている。ロンドン市長はこれらの課題を解決するため2025年までに自転車の利用比を2001年度比400%とする目標を掲げ、2010年にコミュニティサイクルシステムを導入した。通勤、通学の足として活用されている。

また、深刻な大気汚染に直面する中国では、上海などの多くの大都市で急速に自転車シェアリングが拡大しており、Mobike や ofo などがシェアリングサービスを展開している。実際2017年秋に上海を訪れた際には、2015年・2016年に訪れた際と比較して急速に自転車シェアリングサービスが拡大していることが一目瞭然であった。しかし、安全な自転車走行空間等の整備は不十分であった。Mobike や ofo は日本の都市にも進出している。



写真（いずれも筆者が2017年に上海で撮影）

「研究計画書」4・5・6より

仮説の本格的な検証、結論の段階は大学で行いましょう。

### 第3章 考察

第2章での調査の結果をふまえて出てきたのが次の疑問である。交通事故全体が減少しているにもかかわらず、なぜ自転車対歩行者の事故は増えているのか。

自転車先進国である北ヨーロッパ諸国と比較しても、自転車乗用中の死者数の割合が高い。自転車の車道通行義務については大半が知っているが、交通ルールを守ろうとする規範意識は低い。交通ルールを守れない理由として過半数が不十分な通行環境をあげている。このことから北ヨーロッパのように自転車走行空間（自転車道、自転車専用通行帯等）を整備し、交通ルールを守ろうとする規範意識を高めることで自転車対歩行者の事故は減るといふ仮説を立てた。

仮説検証に向けては、自転車先進国で自転車道ネットワークが発達しており、自転車利用に関する教育制度も充実しているオランダの政策を詳細に分析し、日本に適用可能かを考察する必要がある。

第1段落は、「研究計画書」4のRQ。

第2段落は、「研究計画書」5の仮説。

第3段落は、「研究計画書」6の仮説検証に向けた展望。

書き方は、『課題研究メソッド』p. 28, 29 を参照しましょう。参考にした先行研究論文も必ず記載しましょう。

《参考文献》

- 疋田智 (2008). 『自転車安全鉄則』. 朝日新聞出版.
- 内閣府 (2016). 平成 28 年度交通安全施策に関する計画.  
[http://www8.cao.go.jp/koutu/taisaku/h28kou\\_haku/index\\_zenbun\\_pdf.html#h28](http://www8.cao.go.jp/koutu/taisaku/h28kou_haku/index_zenbun_pdf.html#h28). 2017 年 11 月 22 日.
- 内閣府 (2014). 平成 28 年交通安全白書.  
[http://www8.cao.go.jp/koutu/taisaku/h28kou\\_haku/zenbun/keikaku/sanko/sanko02.html](http://www8.cao.go.jp/koutu/taisaku/h28kou_haku/zenbun/keikaku/sanko/sanko02.html). 2017 年 11 月 29 日
- 警察庁 (2011). 自転車に係る法令遵守意識等に関するアンケート調査の実施結果.  
<http://www.npa.go.jp/koutsuu/kikaku/bicycle/taisaku/kekka.pdf>. 2017 年 11 月 21 日
- 濱田啓介 (2013). 「ロンドンのコミュニティサイクルシステム」. 機関誌「自治体国際化フォーラム」, 284, 7-9.
- 日本経済新聞 (2017). 鴻海、アップルも注視 中国で急成長「自転車シェア」.  
<https://r.nikkei.com/article/DGXMZ014644070Z20C17A3000000>. 2017 年 11 月 23 日

# 平成30年度 イノベーション探究Ⅱ 観点別評価のためのルーブリック「研究ノート」評価票

対象研究グループ	-	評価者	組 番 氏 名
----------	---	-----	---------

協働力									
発見力					分析力・調査力				
関連する「研究計画書」Ver.3の項目	研究の動機・問題の背景	細り下げるためのリサーチクエスチョン	具体化されたリサーチクエスチョン	仮説	仮説検証に向けた展望	参考文献	表現力		
関連する「研究ノート」の章など	第1章	第2章	第3章	第3章	第3章	参考文献	表題		
A: 完璧 (Great)	現状を十分に理解し、グローバルな視点で多角的に研究を進めようとしている。	現状を確認・分析するための適切な問いを立て、根拠に基づき順序立てた検討ができてきている。	研究テーマについての理解が十分深まった上で問いを立てている。	「因果」あるいは「比較」を含んだ仮説になっていて、因果関係や比較に説得力がある。	調査を踏まえ、仮説検証に向けた展望を根拠に基づいて考察ができてきている。	複数の書籍・論文や公共性の高いデータを含む参考文献を明示している。	問い(RQ)や答え(仮説)が明確に読み取れる論理的な文章になっている。		
B: 合格 (Good)	現状を理解し、グローバルな視点で研究を進めようとしている。	現状を確認・分析するための適切な問いを立て、検討ができてきている。	研究テーマについての理解が深まった上で問いを立てている。	「因果」あるいは「比較」を含んだ仮説になっている。	仮説検証に向けた展望を示した考察ができてきている。	書籍・論文を含む参考文献を明示している。	問い(RQ)や答え(仮説)が読み取れる文章になっている。		
C: がんばろう (Needs Work)	現状の理解が不十分で、一面的な研究になっている。	現状を確認・分析するための適切な問いを立てられていない。	研究テーマについての理解が深まっていない。	「因果」も「比較」も含まない仮説になっている。	仮説検証に向けた展望を示した考察ができていない。	参考文献を明示している。	問い(RQ)や答え(仮説)が読み取れる文章になっていない。		
評価記入欄 A~C	第1節 第2節 第3節 第4節 第5節 第6節 (1) (2) (3) (4) (5) (6)		第2章総合						
文言評価									

## 「イノベーション探究Ⅱ」～グローバル・ジャスティスプログラム～ 第17回

### 1. 実施日

平成31年2月23日（土）3・4限

### 2. 場所

1棟多目的教室

### 3. 講師

鳥羽高等学校 教諭 渋谷善史 宇川和余 竹林祥子 田中誠樹

### 4. 内容

#### 「研究ノート」の輪読

別グループの4人（3人）が集まり、完成した「研究ノート」を輪読する。12分×3回で他グループの「研究ノート」一つを読み、誤字・脱字、不明点等をチェック（朱書）しながら熟読する。

#### 「研究ノート」自己評価

輪読での諸意見をふまえて、自己評価票に自己評価をする。

#### 「研究ノート」グループ省察

輪読での諸意見をグループで集約する。後日修正入力。

#### 「イノベーション探究Ⅱ」省察

アンケート結果も踏まえて一年間の取組を省察する。

#### 「イノベーション探究Ⅲ」に向けて

英語エッセイ作成に向けて、春休みの課題を理解する。

### 5. 次回への課題

「イノベーション探究Ⅲ」での英語エッセイ作成に向けて、必要な準備を行う。

### 6. 学び

他の研究グループが作成した「研究ノート」の輪読をとおして、アカデミック・ライティングの技法を用いて相互チェックをし、グローバル・イシューに関する課題研究を行った一年間を省察する。リサーチクエスションを立て、掘り下げ、仮説を構築したプロセスを振り返る。また、次年度の「イノベーション探究Ⅲ」への展望を持つ。

基本フォーマット  
A 4 縦置き 余裕「やや狭い」  
Times New Roman 12P 行間 1.0  
両端揃え、日本語入力を OFF に

# A lack of designated bike lanes and failure to follow traffic rules leads to an increase in accidents involving pedestrians and bicycles in Japan

Kyoto Prefectural Toba High School

3-6.7 Toba Ichitaro  
3-7.25 Toba Hanako  
3-7.36 Fushimi Mina  
3-8.17 Kyoto Ken

## I. Background

Recently, many articles have appeared in *Times New Roman 14P 太字* about bicycle accidents. In particular, accidents caused by bicycle riders have been attracting attention.

(中略)

In our research project, we looked at the following question: Why are bicycle accidents increasing even though traffic accidents overall are decreasing?

## II. Research Goals, Method, and Results

### 1. Goal

The goal of our research is to try and find a way to decrease the number of bicycle accidents. In the following sections, we will describe our research and results.

### 2. Are the number of bicycle accidents actually increasing?

We were unable to find any data about the number of bicycle accidents. However, the number of people killed in bicycle accidents is decreasing.

Figure 1 shows, between 2007 and 2017, the total number of traffic accident deaths involving bicycles decreased as a percentage of the total number of traffic accidents.

Moreover, as can be seen in Figure 2, the number of bicycle accidents in Japan is larger than that of other developed countries.

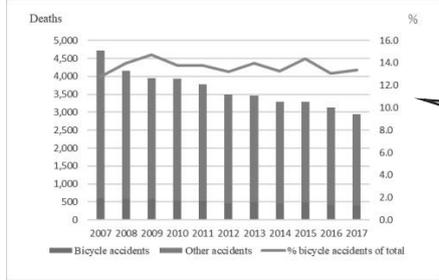


Figure 1. The number of deaths in traffic accidents involving bicycles  
Source: Cabinet Office, Government of Japan

[http://www8.cao.go.jp/kenkou/kyosei/kyosei/kyosei\\_zenbun.pdf.html#h28](http://www8.cao.go.jp/kenkou/kyosei/kyosei/kyosei_zenbun.pdf.html#h28)

(中略)

### 7. Are there cities in foreign countries which are trying to reduce traffic congestion by promoting the use of bicycles?

Yes, there are. One example is London, where the effect of traffic congestion on the environment and people's health has become an issue. In order to deal with this problem, the Mayor of London has set the goal of increasing the use of bicycles by 400% from the 2001 total by the year 2025. As part of this plan, he set up a bike share system, which is used by commuters and students.

Another example is China, which is facing a serious air pollution problem. Bike share systems such as Mobike and ofo have been popular in cities in China. When the author visited Shanghai in 2017, many of these systems have also appeared in cities in Japan.

「But」「And」「Because」から文を始めないこと。代わりに「However」「Also」「It is because...」などを使うこと。

サインポストの表現を上手に使うこと。  
One example is... Another example is... In order to... As a result... Therefore... Moreover... Furthermore... など

カタカナ=英語ではない。たとえば、「コミュニティサイクルシステム」は英語で「bike share system」又は「bike share scheme」



写真は中央揃え

Photo 1 and 2. Shared bicycles in Shanghai  
Source: Taken by author in 2017

Times New Roman 10.5P  
斜体、左揃え

第1段落は考察、  
第2段落は仮説、  
第3段落は検証に向けて

### III. Discussion

In our research we found that while the total numbers of traffic accidents have decreased, the number of accidents involving bicycles and pedestrians have increased.

(中略)

Therefore, we propose the following hypothesis: If Japan follows the example of countries in northern Europe and sets up bike lanes and other measures, the number of accidents involving bicycles and pedestrians who obey traffic rules will increase.

「通行環境」や「自転車対歩行者の事故」とピタリの英語表現はないので、「designated places to ride」や「traffic accidents involving bicycles and pedestrians」のように、英語でその意味を説明する。

In order to test this hypothesis, it is necessary to do a detailed analysis of the Netherlands, which has a large network of bicycle lanes and a well-developed education scheme for bicycle riders. Next, we must determine whether similar measures can be implemented in Japan.

### References

疋田智 (2008). 『自転車の安全鉄則』. 朝日新聞出版.  
内閣府 (2016). 平成 28 年度交通安全施策に関する計画.  
[http://www8.cao.go.jp/koutu/taisaku/h28kou\\_haku/index\\_zenbun\\_pdf.html#h28](http://www8.cao.go.jp/koutu/taisaku/h28kou_haku/index_zenbun_pdf.html#h28). 2017 年 11 月 22 日.

参考文献は日本語です。『課題研究メソッド』と同じフォーマットにすること。  
MS 明朝 10.5P

右クリックをし、「ハイパーリンクの削除」を選択すること

## No.1 「イノベーション探究Ⅱ」 ポスターセッションテーマ・要旨一覧

A1 班	本浪香月 森有佳子 橋本優花	A2 班	青木香菜 杉本杏奈 野口明莉 山中温葉
日本で同性婚は認められるのか		多様なセクシュアリティに寛容な社会にする	
<p>新聞・ネットで見ると、海外では同性婚が20%の割合で認められているのに、日本では認められていない事実があるということは同性婚に反対意見を持つひとがいるということである。でもそれは、賛成派の当事者に対して反対派は意見を述べるが他の賛成派は黙っているので反対派のほうが強いと思われてしまうのではないかと。LGBTの人たちが同性婚を望んでいるので反対意見がどのようにしたら減るかを考える。</p>		<p>最近、差別的発言や差別的行動、学校の教育現場での不適切な言動などが問題になっている。それらはLGBTの人々の人権を奪う行為であり、LGBTの人々が生きづらい世界となっている。また、LGBT自認者が、自己肯定感が低い印象を受け、「普通」を求め、「普通」を全ての人に強要する世間からの偏見や彼らの社会的な立場が自己肯定感の低さに影響を与えていると考えられるため、LGBTの人々が堂々と差別などを受けることなく、過ごすことができる社会について考える。</p>	
A3 班	小屋敷夏葉 緩詰穂波 大八木真生 田邊実結	A4 班	小林昶瑠 河合翼 尾村新太郎 山本勇氣
世界の食糧の偏在問題の原因を探る		日本で仮想通貨が普及しない原因を探る	
<p>近年、先進国のフードロスが増加していると様々なメディアで取り上げられるようになった。これは世界でも問題視されている。特に日本では2015年には食品廃棄量が年間2842万tに及んだ。これは前年と比べて67万t増加した。その一方で発展途上国では栄養失調や飢餓で苦しむ人が減らない。以上のことから、世界で食糧不足による飢えで苦しむ人々を助けることができる方法を探りたいと考えた。そこで世界の飢餓状態がわかるハンガーマップ2015からアフリカ、アジア、中南米の3つの地域の中で特に栄養不足の人口の割合が高い中央アフリカ、アフガニスタン、ハイチについて現状を調査した。さらに以前は食糧不足に陥っていた国がどのようにして回復したのかについても調べる。</p>		<p>近年、先進国と呼ばれる国々では、国民の身近な生活で利用されているという「仮想通貨」。日本でもテレビや新聞などで取り上げられることが増えているが、仮想通貨が普及してきたと実感する日本人は少ない。貨幣を持ち歩く必要がない点や革新的セキュリティー「ブロックチェーンシステム」、偽札の製造不可など、仮想通貨にはメリットが多い。先進国では利用する機会が非常に増えてきている仮想通貨だが、日本国内でその普及を実感できる機会が少ないことも、また事実である。そこで仮想通貨の中でも突出して有名なビットコインに注目して研究することにする。</p>	

A5班	松井俊輔 内田万祐子 大橋夏子 荻野紗瑛	A6班	奥村直人 工千裕 藤川千優 牧井楓
久御山町の定住化を図る		児童労働の原因とは	
<p>グループメンバーの一人が久御山町在住で、農業や工業が盛んであるのに、新しく定住する人より、京都市内や近隣の他府県へ移住する人のほうが多いと感じたので取り上げたいと思った。近年の日本の産業構造は第一次、第二次産業よりも第三次産業であるサービス業が盛んになってきている。それぞれの産業には特徴があることから定住化に産業も関係しているのではないかと考えられる。世界での地域活性化の成功事例を参考に久御山町の定住化問題に取り組む。</p>		<p>様々な教科で学ぶ内容や、ガーナのカカオ農園がTVや本などで取り上げられている内容の中で「児童労働は悪いものだ。」と言われている。たとえば、「子供が雇い主や大人に暴力をふるわれて働かされている。」や「危険な仕事をしている。」「教育が受けられない。」といったことだ。しかし、それは児童労働の悪い部分だけをピックアップしているだけでないのか。児童労働をなくしたときに悪い影響は出てこないのかと疑問に思った。だから、私たちはガーナのカカオ農園に注目して、児童労働の必要とされている原因について考える。</p>	
A7班	島野花梨 谷口夏海 下司一仁	A8班	神吉俊輔 横山皓祐 吉田優成 高山翔伍 安本 慧
インドに残るカースト制度について探る		韓国・中国と日本の関係改善のために日本人ができること	
<p>近年、世界では経済面における「インド」という巨大な市場が注目されている。インドは13億人もの中国に次ぐ世界二位の人口を有しながら、その半数が25歳以下である非常に若い国である。そのため、今後の経済成長は著しいと予測できるうえ、インドのGDPは現在でも中国、日本に次ぐアジア3位である。また、現在のインド首相であるモディ首相が掲げる「make in india」という政策によりモノづくりの拠点として急速に発達している。日本の自動車産業は多くの工場をインドに移している。特にスズキは2017年度インドで165万4000台を売り上げるなど莫大な利益を生み出した。そのようなインドには古くから「カースト制度」が根付いている。私たちは、インドがアジア3位の経済大国になった背景にカースト制度の利点があるのではないかと考え、カースト制度について探る。</p>		<p>韓国・中国が激しい反日運動をしているが、多くの国に好感をもたれている日本がなぜそのような目にあっているのか気になった。また、ネットの普及によって個人が全世界に自分の意見を発信できるようになり、ヘイト投稿やヘイトスピーチも多くみられるようになったことが問題となっている。</p>	

## No.3 「イノベーション探究Ⅱ」ポスターセッションテーマ・要旨一覧

A9班	湯浅理空 猪股諒子 新谷玲 宅間太洋	A10班	兵部遥香 岸田莉奈 安田知世 山田笑莉
日本の行う中東での国際支援の現状		移民の未来 ～移民を取り巻く環境はどう変化するのか～	
<p>近年、中東での戦争や紛争、テロリズムの激化をニュースなどで耳にすることが増えた。さらに、今年の夏、中東のイエメンから難民が内戦から逃れるため、隣国韓国にきたというニュースもあり、日本に住む私たちにとっても中東の内戦や難民の問題は見逃すことのできないものとなっている。それに伴って各地で起こっているライフラインの問題を支援するための募金活動や、支援を募るポスターなど、私たちが支援できる環境も整い始めている。しかし高校が学校全体で取り組む国際的な支援活動は、あまり活発ではない。そこで、私たち高校生が行える継続的な新しい国際支援の仕方を考える。</p>		<p>近年、日本では少子高齢化に伴う労働者の減少が問題視されている。そのため日本は労働者不足を解消するために移民を受け入れることが不可避である。世界では移民を受け入れている国が多々あるが、移民に関する様々な問題が起きている。特にヨーロッパでは、言語、宗教、人種の違いがあるためうまく共存できず、テロが多発するなど社会の混乱を招いている。そこで私たちは移民と日本人がともに共存していくにはどのような社会環境をつくるべきなのか、日本と状況が似ているドイツの労働環境を参考に研究する。</p>	
S1班	加藤直己 田中絵梨 谷岡似稚日 中村遥華 藤森美羽	S2班	東原怜也 岸海渡 尾崎飛鳥 福本崇人
日本における外来種問題を考える		人工知能の可能性を探る	
<p>近年、京都では外来種による農林水産業の被害や生態系への影響がある。私たちはその中でも特に農林水産業への被害に着目した。被害を受けた農林水産業従事者は、復興のために莫大な費用を必要とする。それは鴨川流域だけでなく日本全国にも当てはまることだろう。そこで、海外の事例も参考にしつつ、日本での外来種による被害を防ぐ方法を考える。</p>		<p>近年、人工知能の発達によっていろいろ自動化されているが、そのまま自動化が進んでしまうと別の問題が発生すると思い立ったので、私たちは人工知能との付き合い方について考える。</p>	

TC1 班	鐘ヶ江実緒 坂本真悠子 西澤真由 増山大祐	TC2 班	鎌田晴帆 中尾帆花 長谷川睦 服部心愛 重堂孝太
日本とシンガポールの食文化の違い		ガーナにおける児童労働について	
<p>最近話題になっている異文化理解についてよく知っておくべきだと思う。異文化の理解には時間がかかると思うが、身近な食に焦点を当てたいと思う。今、世界的にブームになっている日本食。しかしその形は私たちの知る日本食とは大きく変わっている。そこで、多民族国家であるシンガポールに目を向けることにした。シンガポールは基本的に中華系の国であるが、他の民族との融合によってどのように姿が変わっていったのか調べていきたい。</p>		<p>私たちは学校にも行かず、朝早くから夜遅くまで働く子どもがいるとニュースで知った。また近年では児童労働の減少率が2012年からの4年間で2008年からの4年間に比べ3分の1になっているという事実も浮かび上がってきた。このような児童労働を解決することで、ニューヨーク国連本部において開催された「国連持続可能な開発サミット」の中で、その成果として制定され現在も解決策が議論されているSDGs(17の持続可能な開発のための目標)のうちの第8目標「包摂かつ持続可能な経済成長及びすべての人の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディセント・ワーク)を促進する」に含まれる第7項目「2025年までに児童兵士の募集と使用を含むあらゆる形態の児童労働を撲滅する」の解決に繋がると考えた。そこで、カカオ農業での児童労働が実態にあるガーナを調べることにした。これを研究することにより、現在労働を強いられている世界の児童のうち10分の1にあたる計1億5200万人の権利を守ることに繋がりたい。</p>	
TC3 班	久世恵太 南泉 北尾友梨 西口慧 三木夏希	TC4 班	高木悠真 竹下航輔 畚野亜美 和田一空 池田淳人
日本国内の学力格差		日本での学習への意識向上	
<p>近年、日本国内における学力格差について本で知った。今後も学力格差は拡大し、学歴社会に影響を与えると予想される学力上位の都道府県と下位の都道府県のそれぞれに共通する特徴を見出し、学力格差への対応を考える。学力の高い国シンガポールの事例も参考にしながら考える。この研究は、日本国内の教育における問題解決のためだけではなく、学力的な発展途上国の課題解決にも役立てることができる。</p>		<p>近年日本では、スマートフォンの普及などにより、学習意識が低下していると言われている。そこで学習意識の向上には、何が必要なのかを研究しようと思った。学力を上げるためには、学習意識の向上が欠かせないと思ったので、この研究をしようと思った。また、他国との教育や学習意識を比較して日本の学習意識の向上に繋がりたい。</p>	

## No.5 「イノベーション探究Ⅱ」ポスターセッションテーマ・要旨一覧

TC5班	北村優貴 朝倉一如 上田大暉 乗原詩乃	TC6班	中村未来 八木優花 緒方千瑛 加賀田万琳
先生の労働時間		中小企業が優秀な人材を確保するには	
<p>近年、教師の退職や過剰な労働がメディアなどで取り上げられる。特に時間外労働や、精神疾患などに注目があつまっている。取り上げられたメディアなどで日本の先生が外国の先生に比べて1授業にかかる準備時間が少ないことが問題視されているのを見て興味を持ったため調査する。</p>		<p>夏休み中、2つの中小企業((株)エージェンシーアシスト、(株)桂建材店)での経営者インターンシップに参加し、実際に職場や経営者の仕事を体験すると共に色々な話を伺った。そこで、課題の1つとして人材確保の話が出た。メディアでも大企業に優秀な人材が流れ、中小企業が困っているという報道もよくある。それを解決するために現状、課題、そして対策を考える。他国の中小企業の人材確保の状況や方法も調査し比較する。中小企業が成長することで、日本経済さらにはグローバル経済の発展につながると考える。</p>	
TC7班	植本大智 洲崎健人 千葉明咲日 福良拓哉		
日本の職場の息苦しさは何処に起因するのか			
<p>近年、労働者のうつ病や過労死等がしきりに報道されている。職場のどのような環境がこのような事態を引き起こしているのか。そして、可能な限り負担を軽減し、文化的で豊かな生活を送ることを目的とした労働の在り方を模索し、労働者人口が減少していく中、中小企業の総合職の働く環境を改善することが肝要だと考える。</p>			

### 移民のミライ ~わたしたちと移民が共生するには~

#### 研究の動機・問題の背景

日本では労働力不足解消のための外国人労働力(=移民)導入が不可避である。受入の是非という二者択一の議論ではなく、現実を直視し、わたしたちが移民と共生していくにはどのような社会環境をつくるべきなのかを考えた。

#### 当初のリサーチエクスチョン (RQ)

移民が働きやすい労働環境とはどのようなものか

#### 掘り下げるためのRQ

**RQ①**  
**少子高齢社会日本の労働力不足の現状は**  
 生産年齢人口 (2015年) ... 7592万人  
 労働者不足 → 6773万人 (2030年)  
 外国人労働者急増 → 4419万人 (2060年)

出典: 総務省「国勢調査」、NHKくらしや解説「解説アーカイブ」、日本労働力機構「人手不足等への対応に関する調査」

**RQ②**  
**「移民」大國ドイツの歴史的背景は**  
 背景 ナチスドイツ時代への反省・難民政策  
 人道の観点からの手厚い移民・難民政策  
 1950年代以降の高度経済成長期...労働力不足  
 →積極的な外国人労働者受入政策

出典: ドイツ連邦統計局「移民を知るための基礎知識」、遠藤三郎・山田浩

**RQ③**  
**ドイツでの移民への施策、労働環境は**  
 2005年 移民法施行→移民のための「統合コース」義務化  
 ドイツ語、歴史、文化、法秩序などを学ぶ講座  
 変換料の大半は国家が負担  
 雇用はドイツ語のスキルによる

**RQ④**  
**日本の外国人労働者=移民受入制度は**  
 技能実習制度...問題点多数  
 (2019~17年までの3年間に69人の技能実習生が死亡)  
 2018年出入国管理法改正→待機外国人労働者さらに増加

出典: 日本経済新聞、NHK NEWS WEB、NEWS WEEK、日本版

**RQ⑤**  
**日本の自治体が抱える課題は**  
 ○外国人受入自治体へのアンケートから見えてきた課題  
 ・多言語化への対応  
 ・生活支援...ゴミ出しマナー、騒音等の近隣トラブル  
 ・防犯情報の伝達  
 ・医療体制の整備  
 ○日本人の移民に対する意識  
 ...犯罪増加・治安悪化の懸念  
 外国人犯罪件数は 2005年をピークに減少傾向

出典: NHKニュースワッチ現代+、法務省「犯罪白書」平成30年版、「コンビニ外国人」岸辺健介

#### 具体化されたRQ

約128万人の外国人労働者や約247万人の在留外国人との共生のために、わたしたちができることは何か

#### 仮説

共生に向けての关键是「交流(=コミュニケーション)継続」。わたしたちから積極的に交流する機会を増やすことが必要である。コミュニケーションを促進すれば外国人とのトラブルや懸念がなくなるわけではないが、コミュニケーションがなければトラブルや懸念を解消するきっかけがつかない。

#### 仮説検証に向けた展望

多文化共生を推進している東京都新宿区・広島県安芸高田市・北海道川町町の取組や、埼玉県川口市芝園団地などの取組を調査し、具体的な交流がもたらす効果を検証する必要がある。

### Ways for small and medium-sized businesses (SMBs) to recruit new employees

2723: Kyoto Prefectural Toho High School

#### Research Question

How can we interest young people in working for SMBs in Kyoto?

#### Background

Small and Medium sized businesses (SMBs) account for 99.7% of all companies in Japan. This is high even among OECD nations. Keeping SMBs healthy is Vital not only for Japan, but also for the global economy. However, SMBs are facing one very difficult problem. It is a shortage of qualified employees.

#### Investigation

**RQ①**  
 How severe is the employee shortage faced by SMBs?  
 73.7% of SMBs report an employee shortage.  
 Of those, 20% say the shortage is "very serious."

Reference: Organization for Small & Medium Enterprises and Regional Innovation, JAPAN (2017). *SMB Survey Report*.

**RQ③**  
 What are the advantages of working for SMBs?

Reference: Interviews at Agency Assist Corp., Katsura Building Materials Corp., JETRO, and the Kyoto SMB Association Youth Conference (2018).

**RQ⑤**  
 What advantages does Kyoto have for SMBs?

Reference: The Japan Economic Research Institute. (2016). *The JERI Monthly Report*.

**RQ②**  
 What kind of employees do SMBs need?

Reference: Interview at Agency Assist Corp., Katsura Building Materials Corp. and JETRO (2018).

**RQ④**  
 What are Japanese students' employment preferences?

University students at top schools tend to prefer to work at large corporations. However, 54.1% of private university students are open to working for SMBs.

Reference: Sunday Mainichi 2015.8.2 (Mainichi)(2018). *Survey of graduating students employment*.

**RQ⑥**  
 How is the working environment at SMBs?

Reference: The Ministry of Health, Labor and Welfare. (2012). *Survey on State of Employees' Health*.

#### Proposal

SMBs in Kyoto should target university students in the Kansai area for recruitment

#### Discussion

The SMB Association of Kyoto can make a recruitment web page which emphasizes the superior work-life balance and other advantages of working for SMBs. Ads on YouTube, which are cost-effective, can be used to promote the site. In this way, SMBs can get enough employees and stay healthy.

## 平成30年度「第1学年 総合的な学習の時間」年間概要

○日程

学期	回	内容
1 学期	第1回	合同ガイダンス(於 1棟3F講堂) 「京の智」に関わるキーワードを挙げる(次回、キーワードのいくつかについて検索した結果をプリントアウトして持ってくる)
	第2回～第4回	検索した結果を文章などにまとめ、マイ・テーマを作る→マイ・リサーチクエスチョンを設定する→マイ・リサーチクエスチョンについて400字で解説文を作る
	第5回	きょうと留学生ハウスの学生との交流会
	第6回	個人レポート作成準備
夏 休 み		個人レポート作成のためのフィールドワーク
2 学期	第7回	キャリアガイダンス(京都南ロータリークラブ)
	第8回、第9回	個人レポート作成
	第10回	子どもの知的好奇心をくすぐる体験授業 (京都大学杉本淑彦先生「文章の表現とマンガ・アニメの表現」)
	第11回～第14回	グループ研究開始(11月中下旬より、情報科でパワーポイント作成指導)
3 学期	第15回	グループ発表最終準備
	第16回	クラスごとに課題研究発表会(京都府名誉友好大使による講評) 総括アンケート
	第17回	1年間のまとめ及び次年度に向けての展望

## 平成30年度「第2学年 総合的な学習の時間」年間概要

○日程

学期	回	内容
1 学期	第1回、第2回	春休み課題図書読書成果発表会 ガイダンス(趣旨説明)
	第3回、第4回	研究グループ決定・研究テーマ検討
	第5回～1学期終わり	「研究計画書」Ver.1 作成
夏 休 み		「研究計画書」Ver.1(個人部分)作成 課題図書(新書)読書
2 学期	2学期始め～	「研究計画書」Ver.2 作成
	11月下旬～	クラスごとにポスターセッション
3 学期	3学期始め～	ポスターセッション最終準備(ポスター及び原稿修正、想定問答集作成)
	2月中旬	3・4組、5・6組合同でポスターセッション(課題研究発表)
	2月下旬	「研究計画書」Ver.3 作成



平成 27 年度文部科学省指定 スーパーグローバルハイスクール<第 4 年次>  
「イノベーション探究」実践報告書  
平成 31 年 3 月発行

京都府立烏羽高等学校

〒601-8449

京都市南区西九条大国町 1

TEL 075-672-6788

FAX 075-691-7448

<http://www.kyoto-be.ne.jp/toba-hs/>

E-mail [toba-hs@kyoto-be.ne.jp](mailto:toba-hs@kyoto-be.ne.jp)